

| | | | | | | | |
|------------|--|----------|-----------------|-------------|-----------|------|--------------|
| 科目名 (英) | エコロジー概論・関連法規 | 必修 選択 | 必修・選択必修・選択 等 | 年次 | 1 | 担当教員 | 高山 清次 |
| | (Introduction to eEcology・Related Laws and Regulation) | 授業 形態 | 講義・演習・実習等 | 総時間 (単位) | 30 (2) | 開講区分 | 後期 火曜日 1限 |
| 学科・コース | 動物・ペット学科昼間Ⅰ部 | | | | | | |
| 教員の略歴 | 1985年麻布大学大学院獣医学部博士課程修了、ブルークロス動物病院院長 | | | | | | |
| 授業の学習内容 | 世界の環境問題 生物の減少 森林の減少 海洋汚染 地球温暖化 暮らしとエネルギー 生活とゴミ 食生活 動物園と水族館の環境 動物病院とペットショップ 牧場と山里 | | | | | | |
| 到達目標 | 日常的に自然と環境に対して配慮できるようにする | | | | | | |
| 評価方法と基準 | 筆記試験:100% | | | | | | |

| 授業計画・内容 | | | | |
|------------------------|----|------|--|-------------------|
| 回数 | 日程 | 授業形態 | 学習内容 | 準備学習 時間外学習(学習課題) |
| 1 | / | 講義 | 世界の環境問題に関して理解できる 野生生物の減少について理解できる | 講義範囲を予習・復習する。 |
| 2 | / | 講義 | 森林の減少 熱帯林の減少について理解できる 地球温暖化の原因について理解できる | 講義範囲を予習・復習する。 |
| 3 | / | 講義 | 海洋汚染 大切な海について 青い星がにぎり始めた原因を理解できる | 講義範囲を予習・復習する。 |
| 4 | / | 講義 | 暮らしとエネルギー・食生活・ 生活とゴミについて理解できる | 講義範囲を予習・復習する。 |
| 5 | / | 講義 | 動物園と水族館の環境ズーストック計画 牧場・山里の環境について理解できる | 講義範囲を予習・復習する。 |
| 6 | / | 講義 | すべては自分とつながっており、環境問題は他人 事ではないことを理解できる | 講義範囲を予習・復習する。 |
| 7 | / | 試験 | 評価試験 | 試験範囲を勉強し、試験後、見直す。 |
| 8 | / | 講義 | 法について学ぶ意義を知る | 講義範囲を予習・復習する。 |
| 9 | / | 講義 | 家畜衛生法関連・感染症法・ 狂犬病予防について理解する。 | 講義範囲を予習・復習する。 |
| 10 | / | 講義 | 愛護と管理の法について理解する。① | 講義範囲を予習・復習する。 |
| 11 | / | 講義 | 愛護と管理の法について理解する。② | 講義範囲を予習・復習する。 |
| 12 | / | 講義 | 外来法について理解する。 | 講義範囲を予習・復習する。 |
| 13 | / | 講義 | 鳥獣保護法について理解する。 | 講義範囲を予習・復習する。 |
| 14 | / | 試験 | 評価試験 | 試験範囲を勉強し、試験後、見直す。 |
| 15 | / | 講義 | 評価試験返却・解説・まとめ | 試験範囲を振り返り、理解を深める。 |
| 準備学習 時間外学習 | | | 学校の図書やインターネットを利用して講義の範囲内を予習・復習する。 | |
| 【使用教科書・教材・参考書】 □ | | | | |
| 「次世代のための環境教育 株式会社滋慶出版」 | | | | |

| | | | | | | | |
|------------|--|----------|-------------|-------------|-----------|------|--------------|
| 科目名 (英) | アニマルヒストリー (History of Animals and Human) | 必修 選択 | 必修・選択必修・選択等 | 年次 | 1 | 担当教員 | 高山清次 |
| 学科・コース | 動物・ペット学科昼間Ⅰ部 | 授業 形態 | 講義・演習・実習等 | 総時間 (単位) | 60 (4) | 開講区分 | 前期 月曜日 1限 |
| 教員の略歴 | 1985年麻布大学大学院獣医学部博士課程修了、ブルークロス動物病院院長 | | | | | | |
| 授業の学習内容 | ＜アニマルヒストリー＞動物に関する歴史を学び、現代社会において、いかに動物との関係が必要であるかについて理解することを目的とする。 | | | | | | |
| 到達目標 | ＜アニマルヒストリー＞この科目を受講した学生が、広い視野と柔軟な考え方をもち、「人と動物のより良い関係」を築くことができる業界人になることを目標としている。 | | | | | | |
| 評価方法と基準 | 定期試験:80% 授業態度と参加度:20% | | | | | | |

| 授業計画・内容 | | | | |
|---|----|------|--|-------------------|
| 回数 | 日程 | 授業形態 | 学習内容 | 準備学習 時間外学習(学習課題) |
| 1 | / | 講義 | 光合成・食物連鎖、血液の役割・成分・生成、消毒・滅菌を説明できる。 | 講義範囲を予習・復習する。 |
| 2 | / | 講義 | ズーノーシス、濃度計算と希釈法、バイタルサイン、生体防御システムを説明できる。 | 講義範囲を予習・復習する。 |
| 3 | / | 講義 | エイズと免疫、アレルギーと免疫、ワクチンと免疫、外分泌と内分泌、代謝を説明できる。 | 講義範囲を予習・復習する。 |
| 4 | / | 講義 | 五大栄養素、遺伝、繁殖、イヌとネコの交配を説明できる。 | 講義範囲を予習・復習する。 |
| 5 | / | 講義 | DNA・遺伝子・ゲノム、体細胞クローン動物、外来種、絶滅危惧種を説明できる。 | 講義範囲を予習・復習する。 |
| 6 | / | 講義 | 温暖化、酸性雨、オゾンホール、エコロジー関連の国際条約を説明できる。 | 講義範囲を予習・復習する。 |
| 7 | / | 試験 | 評価試験 | 試験範囲を勉強し、試験後、見直す。 |
| 8 | / | 講義 | 動物の進化とゲノムDNAの進化を説明できる。 | 講義範囲を予習・復習する。 |
| 9 | / | 講義 | イエイヌの歴史、人間と家畜の歴史、動物の仕事に携わる基としての倫理を説明できる。 | 講義範囲を予習・復習する。 |
| 10 | / | 講義 | ペットビジネスの種類を説明できる。環境を守る観察と観光について知識を深める。 | 講義範囲を予習・復習する。 |
| 11 | / | 講義 | 動物介在療法(AAT)と動物介在活動(AAA)、動物が人に与える効果について、セラピーに向く動物の育成、ペットロスを説明できる。 | 講義範囲を予習・復習する。 |
| 12 | / | 講義 | 牧羊犬、警察犬、救助犬身体障害者補助犬法、盲導犬、介助犬、聴導犬を説明できる。 | 講義範囲を予習・復習する。 |
| 13 | / | 講義 | BSE問題、鳥インフルエンザ、日本の食料自給率、動物愛護問題を説明できる。 | 講義範囲を予習・復習する。 |
| 14 | / | 試験 | 評価試験 | 試験範囲を勉強し、試験後、見直す。 |
| 15 | / | 講義 | 評価試験返却・解説・まとめ | 試験範囲を振り返り、理解を深める。 |
| 準備学習 時間外学習 | | | 学校の図書やインターネットを利用して講義の範囲内を予習・復習する。 | |
| 【使用教科書・教材・参考書】 □ | | | | |
| 「ECO業界で役立つ基礎生物 株式会社滋慶出版」「動物年表で知るアニマルヒストリー 株式会社滋慶出版」 | | | | |

| | | | | | | | |
|------------|--|----------|-------------|-------------|-----------|------|-----------------------|
| 科目名 (英) | アニマルヒストリー (History of Animals and Human) | 必修 選択 | 必修・選択必修・選択等 | 年次 | 1 | 担当教員 | 高山清次 |
| 学科・コース | 動物・ペット学科昼間Ⅰ部 | 授業 形態 | 講義・演習・実習等 | 総時間 (単位) | 60 (4) | 開講区分 | 後期 曜日・時限 火曜日 1限 |
| 教員の略歴 | 1985年麻布大学大学院獣医学部博士課程修了、ブルークロス動物病院院長 | | | | | | |
| 授業の学習内容 | ＜アニマルヒストリー＞動物に関する歴史を学び、現代社会において、いかに動物との関係が必要であるかについて理解することを目的とする。 | | | | | | |
| 到達目標 | ＜アニマルヒストリー＞この科目を受講した学生が、広い視野と柔軟な考え方をもち、「人と動物のより良い関係」を築くことができる業界人になることを目標としている。 | | | | | | |
| 評価方法と基準 | 定期試験:80% 授業態度と参加度:20% | | | | | | |

| 授業計画・内容 | | | | |
|---|----|------|-----------------------------------|-------------------|
| 回数 | 日程 | 授業形態 | 学習内容 | 準備学習 時間外学習(学習課題) |
| 1 | / | 講義 | CAPPを理解する | 講義範囲を予習・復習する。 |
| 2 | / | 講義 | CAPPを理解する | 講義範囲を予習・復習する。 |
| 3 | / | 講義 | AAAを理解する | 講義範囲を予習・復習する。 |
| 4 | / | 講義 | AAAを理解する | 講義範囲を予習・復習する。 |
| 5 | / | 講義 | AATを理解する | 講義範囲を予習・復習する。 |
| 6 | / | 講義 | AATを理解する | 講義範囲を予習・復習する。 |
| 7 | / | 試験 | AAEを理解する | 試験範囲を勉強し、試験後、見直す。 |
| 8 | / | 講義 | AAEを理解する | 講義範囲を予習・復習する。 |
| 9 | / | 講義 | AAEを理解する | 講義範囲を予習・復習する。 |
| 10 | / | 講義 | HABを理解する | 講義範囲を予習・復習する。 |
| 11 | / | 講義 | HABを理解する | 講義範囲を予習・復習する。 |
| 12 | / | 講義 | HABを理解する | 講義範囲を予習・復習する。 |
| 13 | / | 講義 | HABを理解する | 講義範囲を予習・復習する。 |
| 14 | / | 試験 | 評価試験 | 試験範囲を勉強し、試験後、見直す。 |
| 15 | / | 講義 | 評価試験返却・解説・まとめ | 試験範囲を振り返り、理解を深める。 |
| 準備学習 時間外学習 | | | 学校の図書やインターネットを利用して講義の範囲内を予習・復習する。 | |
| 【使用教科書・教材・参考書】 □ | | | | |
| 「ECO業界で役立つ基礎生物 株式会社滋慶出版」「動物年表で知るアニマルヒストリー 株式会社滋慶出版」 | | | | |

| | | | | | | | |
|------------|--|----------|-------------|-------------|------------|------|-------------------------|
| 科目名 (英) | アニマルトレーニング (Training of Animals) | 必修 選択 | 必修・選択必修・選択等 | 年次 | 1 | 担当教員 | 南條 絵美 |
| 学科・コース | 動物・ペット学科昼間 I 部 | 授業 形態 | 講義・演習・実習等 | 総時間 (単位) | 120 (8) | 開講区分 | 前期 金曜日 1限・2 曜日・時限 |
| 教員の略歴 | JKC公認訓練士、1999年～2003年警察犬大場訓練所勤務、動物系専門学校にてドッグトレーニングの非常勤講師を務める | | | | | | |
| 授業の学習内容 | 犬のトレーニングに必要な基礎知識を理解するための講義と、実際に犬を使った演習を行うことによりより深くトレーニングを理解する授業です。 自分自身がしっかりとトレーニングを理解する事により、犬が理解しやすいトレーニングを習得します。 ※ 実際に犬を使ったトレーニングを行う授業のため、内容に変更のある場合があります。 | | | | | | |
| 到達目標 | 犬の本能を利用したトレーニング方法を使い、基本動作を犬に教えることが出来る。 後期及び、進級後に備えアマチュアにトレーニング方法を理解しやすく説明出来る様になる。 | | | | | | |
| 評価方法と基準 | <ul style="list-style-type: none"> 定期試験(筆記試験) 60% 講義・演習中の態度及び、トレーニング成果 40% | | | | | | |

| 授業計画・内容 | | | | |
|------------|----|-------|-----------------------------------|-------------------|
| 回数 | 日程 | 授業形態 | 学習内容 | 準備学習 時間外学習(学習課題) |
| 1 | | 講義・演習 | 学校犬犬種を理解する | 講義範囲を予習・復習する。 |
| 2 | | 講義・演習 | JKC TOP 5位、褒め、叱りを理解する | 講義範囲を予習・復習する。 |
| 3 | | 講義・演習 | JKC TOP 10位、指示の出し方を理解する | 講義範囲を予習・復習する。 |
| 4 | | 講義・演習 | JKC TOP 15位、権勢症候群を理解する | 講義範囲を予習・復習する。 |
| 5 | | 講義・演習 | JKC TOP 20位、権勢症候群を理解する | 講義範囲を予習・復習する。 |
| 6 | | 講義・演習 | JKC TOP 25位、分離不安を理解する | 講義範囲を予習・復習する。 |
| 7 | | 講義・演習 | JKC TOP 30位、分離不安を理解する | 講義範囲を予習・復習する。 |
| 8 | | 講義・演習 | JKC TOP 35位、ハウストレーニングを理解する | 講義範囲を予習・復習する。 |
| 9 | | 講義・演習 | JKC TOP 40位、トイレトレーニングを理解する | 講義範囲を予習・復習する。 |
| 10 | | 講義・演習 | JKC TOP 45位、遊びの重要性を理解する | 講義範囲を予習・復習する。 |
| 11 | | 講義・演習 | JKC TOP 50位、トレーニングの意義を理解する | 講義範囲を予習・復習する。 |
| 12 | | 講義・演習 | 本能を理解する | 講義範囲を予習・復習する。 |
| 13 | | 講義・演習 | 本能を理解する | 講義範囲を予習・復習する。 |
| 14 | | 試験 | 筆記試験 | 試験範囲を勉強し、試験後、見直す。 |
| 15 | | 講義・演習 | 筆記試験結果をもとに重要な点を再確認 | 試験範囲を振り返り、理解を深める。 |
| 準備学習 時間外学習 | | | 校外研修では授業で学んだことを確認してより深い知識としてください。 | |

【使用教科書・教材・参考書】

社団法人 日本動物園水族館協会発行 新飼育ハンドブック 水族館編 第1・2・3集

| | | | | | | | |
|-------------|--|----------|-----------------|-------------|------------|------|-------------------------|
| 科目名 (英) | アニマルトレーニング (Training of Animals) | 必修 選択 | 必修・選択必 修・選択等 | 年次 | 1 | 担当教員 | 南條 絵美 |
| 学科・コース | 動物・ペット学科昼間 I 部 | 授業 形態 | 講義・演習・実 習等 | 総時間 (単位) | 120 (8) | 開講区分 | 後期 金曜日 1限・2 曜日・時限 |
| 教員の略歴 | JKC公認訓練士、1999年～2003年警察犬大場訓練所勤務、動物系専門学校にてドッグトレーニングの非常勤講師を務める | | | | | | |
| 授業の学習内 容 | 犬のトレーニングに必要な基礎知識を理解するための講義と、実際に犬を使った演習を行うことによりより深くトレーニングを理解する授業です。 自分自身がしっかりとトレーニングを理解する事により、犬が理解しやすいトレーニングを習得します。 ※ 実際に犬を使ったトレーニングを行う授業のため、内容に変更のある場合があります。 | | | | | | |
| 到達目標 | 犬の本能を利用したトレーニング方法を使い、基本動作を犬に教えることが出来る。 後期及び、進級後に備えアマチュアにトレーニング方法を理解しやすく説明出来る様になる。 | | | | | | |
| 評価方法と基準 | <ul style="list-style-type: none"> 定期試験(筆記試験) 60% 講義・演習中の態度及び、トレーニング成果 40% | | | | | | |

| 授業計画・内容 | | | | |
|--|----|-------|---|------------------|
| 回数 | 日程 | 授業形態 | 学習内容 | 準備学習 時間外学習(学習課題) |
| 1 | | 講義・演習 | 担当犬の理解 (実際に犬と接することにより、性格を読み取り犬具の装・脱着が出来る) | 学校飼育犬及び、担当犬の管理 |
| 2 | | 講義・演習 | 招呼(呼び戻し)を教えることが出来る | 学校飼育犬及び、担当犬の管理 |
| 3 | | 講義・演習 | 誘惑がある状況での招呼を教えることが出来る | 学校飼育犬及び、担当犬の管理 |
| 4 | | 講義・演習 | 脚側意識の基礎を教えることが出来る | 学校飼育犬及び、担当犬の管理 |
| 5 | | 講義・演習 | 脚側行進の基礎を教えることが出来る | 学校飼育犬及び、担当犬の管理 |
| 6 | | 講義・演習 | ハウスを教えることが出来る | 学校飼育犬及び、担当犬の管理 |
| 7 | | 講義・演習 | 伏臥を教えることが出来る | 学校飼育犬及び、担当犬の管理 |
| 8 | | 講義・演習 | 脚側意識の応用を教えることが出来る | 学校飼育犬及び、担当犬の管理 |
| 9 | | 講義・演習 | 脚側行進の応用を教えることが出来る | 学校飼育犬及び、担当犬の管理 |
| 10 | | 講義・演習 | 声符・視符を正しく使うことが出来る | 学校飼育犬及び、担当犬の管理 |
| 11 | | 講義・演習 | JKC 家庭犬訓練試験の規定を理解する | 学校飼育犬及び、担当犬の管理 |
| 12 | | 講義・演習 | JKC CD-1の規定を教えることが出来る | 学校飼育犬及び、担当犬の管理 |
| 13 | | 講義・演習 | JKC CD-1の規定を教えることが出来る | 学校飼育犬及び、担当犬の管理 |
| 14 | | 講義・試験 | 試験 (筆記試験) | 学校飼育犬及び、担当犬の管理 |
| 15 | | 講義・演習 | 前期の講義と演習を振り返り、総合的な理解を深める | 学校飼育犬及び、担当犬の管理 |
| 準備学習 時間外学習 | | | 校外研修では授業で学んだことを確認してより深い知識としてください。 | |
| 【使用教科書・教材・参考書】 □ | | | | |
| 社団法人 日本動物園水族館協会発行 新飼育ハンドブック 水族館編 第1・2・3集 | | | | |

| | | | | | | | |
|------------|--|----------|-------------|-------------|------------|------|---------------------|
| 科目名 (英) | アニマルヘルスケア (Animal Herthcare) | 必修 選択 | 必修・選択必修・選択等 | 年次 | 1 | 担当教員 | 長嶺 幸介 |
| 学科・コース | 動物・ペット学科昼間 I 部 | 授業 形態 | 講義・演習・実習等 | 総時間 (単位) | 120 (8) | 開講区分 | 前期 火曜日 2限・3 限 |
| 教員の略歴 | 1989年～1992年競走馬生産牧場、1992年～1996年乗馬クラブ、1996年～2000年ペットショップ、移動動物園勤務 | | | | | | |
| 授業の学習内容 | エキゾチックアニマル、鳥類、両生類、爬虫類の生態や管理などについて理解し、適切な管理ができる。 | | | | | | |
| 到達目標 | 健康的な飼育管理ができる。 | | | | | | |
| 評価方法と基準 | 定期試験:80% 授業態度と参加度:20% | | | | | | |

| 授業計画・内容 | | | | |
|---|----|------|-----------------------------------|-------------------|
| 回数 | 日程 | 授業形態 | 学習内容 | 準備学習 時間外学習(学習課題) |
| 1 | / | 講義 | ①草食齧歯類を理解できる。 | 講義範囲を予習・復習する。 |
| 2 | / | 講義 | ②草食齧歯類を理解できる。 | 講義範囲を予習・復習する。 |
| 3 | / | 講義 | ③草食齧歯類を理解できる。 | 講義範囲を予習・復習する。 |
| 4 | / | 講義 | ④草食齧歯類を理解できる。 | 講義範囲を予習・復習する。 |
| 5 | / | 講義 | ⑤草食齧歯類を理解できる。 | 講義範囲を予習・復習する。 |
| 6 | / | 講義 | ①食虫目について理解できる。 | 講義範囲を予習・復習する。 |
| 7 | / | 講義 | ②食虫目について理解できる。 | 講義範囲を予習・復習する。 |
| 8 | / | 講義 | ①雑食齧歯類について理解できる。 | 講義範囲を予習・復習する。 |
| 9 | / | 講義 | ②雑食齧歯類について理解できる。 | 講義範囲を予習・復習する。 |
| 10 | / | 講義 | ③雑食齧歯類について理解できる。 | 講義範囲を予習・復習する。 |
| 11 | / | 講義 | ①食肉目について理解できる。 | 講義範囲を予習・復習する。 |
| 12 | / | 講義 | ②食肉目について理解できる。 | 講義範囲を予習・復習する。 |
| 13 | / | 講義 | ③食肉目について理解できる。 | 講義範囲を予習・復習する。 |
| 14 | / | 試験 | 評価試験 | 試験範囲を勉強し、試験後、見直す。 |
| 15 | / | 講義 | 評価試験返却・解説・まとめ | 試験範囲を振り返り、理解を深める。 |
| 準備学習 時間外学習 | | | 学校の図書やインターネットを利用して講義の範囲内を予習・復習する。 | |
| 【使用教科書・教材・参考書】 □ | | | | |
| 学校の図書室にある公衆衛生関係の本やインターネットを利用する。「イラストでみる 動物の飼養管理 株式会社滋慶出版」 | | | | |

| | | | | | | | |
|------------|--|----------|-------------|-------------|------------|------|-----------------|
| 科目名 (英) | アニマルヘルスケア (Animal Herthcare) | 必修 選択 | 必修・選択必修・選択等 | 年次 | 1 | 担当教員 | 長嶺 幸介 |
| 学科・コース | 動物・ペット学科昼間 I 部 | 授業 形態 | 講義・演習・実習等 | 総時間 (単位) | 120 (8) | 開講区分 | 後期 火曜日 2限・3限 |
| 教員の略歴 | 1989年～1992年競走馬生産牧場、1992年～1996年乗馬クラブ、1996年～2000年ペットショップ、移動動物園勤務 | | | | | | |
| 授業の学習内容 | エキゾチックアニマル、鳥類、両生類、爬虫類の生態や管理などについて理解し、適切な管理ができる。 | | | | | | |
| 到達目標 | 健康的な飼育管理ができる。 | | | | | | |
| 評価方法と基準 | 定期試験:80% 授業態度と参加度:20% | | | | | | |

| 授業計画・内容 | | | | |
|---|----|------|-----------------------------------|-------------------|
| 回数 | 日程 | 授業形態 | 学習内容 | 準備学習 時間外学習(学習課題) |
| 1 | / | 講義 | ①鳥類を理解できる。 | 講義範囲を予習・復習する。 |
| 2 | / | 講義 | ②鳥類を理解できる。 | 講義範囲を予習・復習する。 |
| 3 | / | 講義 | ③鳥類を理解できる。 | 講義範囲を予習・復習する。 |
| 4 | / | 講義 | ④鳥類を理解できる。 | 講義範囲を予習・復習する。 |
| 5 | / | 講義 | ⑤鳥類を理解できる。 | 講義範囲を予習・復習する。 |
| 6 | / | 講義 | ①爬虫類について理解できる。 | 講義範囲を予習・復習する。 |
| 7 | / | 講義 | ②爬虫類について理解できる。 | 講義範囲を予習・復習する。 |
| 8 | / | 講義 | ③爬虫類について理解できる。 | 講義範囲を予習・復習する。 |
| 9 | / | 講義 | ④爬虫類について理解できる。 | 講義範囲を予習・復習する。 |
| 10 | / | 講義 | ①両生類について理解できる。 | 講義範囲を予習・復習する。 |
| 11 | / | 講義 | ②両生類について理解できる。 | 講義範囲を予習・復習する。 |
| 12 | / | 講義 | ③両生類について理解できる。 | 講義範囲を予習・復習する。 |
| 13 | / | 講義 | ④両生類について理解できる。 | 講義範囲を予習・復習する。 |
| 14 | / | 試験 | 評価試験 | 試験範囲を勉強し、試験後、見直す。 |
| 15 | / | 講義 | 評価試験返却・解説・まとめ | 試験範囲を振り返り、理解を深める。 |
| 準備学習 時間外学習 | | | 学校の図書やインターネットを利用して講義の範囲内を予習・復習する。 | |
| 【使用教科書・教材・参考書】 <input type="checkbox"/> | | | | |
| 学校の図書室にある公衆衛生関係の本やインターネットを利用する。「イラストでみる 動物の飼養管理 株式会社滋慶出版」 | | | | |

| | | | | | | | |
|------------|---|----------|-------------|-------------|-----------|------|--------------|
| 科目名 (英) | 基礎獣医学(解剖・病理) | 必修 選択 | 必修・選択必修・選択等 | 年次 | 1 | 担当教員 | 嶋田 千晃 |
| 学科・コース | 動物・ペット学科昼間Ⅰ部 | 授業 形態 | 講義・演習・実習等 | 総時間 (単位) | 60 (4) | 開講区分 | 前期 水曜日 1限 |
| 教員の略歴 | 1986年～1989年動物病院勤務、1989年～2009年動物系専門学校勤務、2009年～動物系専門学校非常勤講師 | | | | | | |
| 授業の学習内容 | 動物の体のしくみを理解し、知識や行動につなげ、体の構造を理解する | | | | | | |
| 到達目標 | この科目を受講して、学生が動物の体のしくみを理解し、飼育の知識と行動を行うことができるようにする | | | | | | |
| 評価方法と基準 | 定期試験:80% 授業態度と参加度:20% | | | | | | |

| 授業計画・内容 | | | | |
|---|----|------|-----------------------------------|-------------------|
| 回数 | 日程 | 授業形態 | 学習内容 | 準備学習 時間外学習(学習課題) |
| 1 | / | 講義 | 外皮系、皮膚、被毛、爪を理解する | 講義範囲を予習・復習する。 |
| 2 | / | 講義 | 口腔、歯を理解する | 講義範囲を予習・復習する。 |
| 3 | / | 講義 | 口腔、歯、消化器系を理解する | 講義範囲を予習・復習する。 |
| 4 | / | 講義 | 咽頭、食道を理解する | 講義範囲を予習・復習する。 |
| 5 | / | 講義 | 胃を理解する | 講義範囲を予習・復習する。 |
| 6 | / | 講義 | 小腸、大腸を理解する | 講義範囲を予習・復習する。 |
| 7 | / | 試験 | 肝臓、胆嚢Ⅰを理解する | 講義範囲を予習・復習する。 |
| 8 | / | 講義 | 肝臓、胆嚢Ⅰ胆嚢Ⅱを理解する | 講義範囲を予習・復習する。 |
| 9 | / | 講義 | 膵臓を理解する | 講義範囲を予習・復習する。 |
| 10 | / | 講義 | 腎臓Ⅰを理解する | 講義範囲を予習・復習する。 |
| 11 | / | 講義 | 腎臓Ⅱを理解する | 講義範囲を予習・復習する。 |
| 12 | / | 講義 | 尿管、膀胱、尿道を理解する | 講義範囲を予習・復習する。 |
| 13 | / | 講義 | 鼻腔、咽頭、喉頭を理解する | 講義範囲を予習・復習する。 |
| 14 | / | 試験 | 気管、気管支を理解する | 講義範囲を予習・復習する。 |
| 15 | / | 講義 | 試験、振り返り | 試験範囲を勉強し、試験後、見直す。 |
| 準備学習 時間外学習 | | | 学校の図書やインターネットを利用して講義の範囲内を予習・復習する。 | |
| 【使用教科書・教材・参考書】 □ | | | | |
| 「動物の体のしくみ 株式会社滋慶出版」「動物のからだの構造と機能 ファームプレス」 | | | | |

| | | | | | | | |
|------------|---|----------|-------------|-------------|-------------|------|--------------|
| 科目名 (英) | 基礎獣医学(解剖・病理) | 必修 選択 | 必修・選択必修・選択等 | 年次 | 1 | 担当教員 | 嶋田 千晃 |
| 学科・コース | 動物・ペット学科昼間 I 部 | 授業 形態 | 講義・演習・実習等 | 総時間 (単位) | 60 (4) | 開講区分 | 後期 水曜日 1限 |
| 教員の略歴 | 1986年～1989年動物病院勤務、1989年～2009年動物系専門学校勤務、2009年～動物系専門学校非常勤講師 | | | | | | |
| 授業の学習内容 | 動物の体のしくみを理解し、知識や行動につなげ、体の構造を理解する | | | | | | |
| 到達目標 | この科目を受講して、学生が動物の体のしくみを理解し、飼育の知識と行動を行うことが出来るようになる | | | | | | |
| 評価方法と基準 | 定期試験:80% 授業態度と参加度:20% | | | | | | |

| 授業計画・内容 | | | | |
|---|----|------|-----------------------------------|------------------|
| 回数 | 日程 | 授業形態 | 学習内容 | 準備学習 時間外学習(学習課題) |
| 1 | / | 講義 | 生殖器系を理解する | 講義範囲を予習・復習する。 |
| 2 | / | 講義 | ①内分泌系を理解する | 講義範囲を予習・復習する。 |
| 3 | / | 講義 | ②内分泌系を理解する | 講義範囲を予習・復習する。 |
| 4 | / | 講義 | ①循環器系を理解する | 講義範囲を予習・復習する。 |
| 5 | / | 講義 | ②循環器系を理解する | 講義範囲を予習・復習する。 |
| 6 | / | 講義 | 感覚器系を理解する | 講義範囲を予習・復習する。 |
| 7 | / | 試験 | ①神経系を理解する | 講義範囲を予習・復習する。 |
| 8 | / | 講義 | ②神経系を理解する | 講義範囲を予習・復習する。 |
| 9 | / | 講義 | ①筋系を理解する | 講義範囲を予習・復習する。 |
| 10 | / | 講義 | ②筋系を理解する | 講義範囲を予習・復習する。 |
| 11 | / | 講義 | ①骨格系を理解する | 講義範囲を予習・復習する。 |
| 12 | / | 講義 | ②骨格系を理解する | 講義範囲を予習・復習する。 |
| 13 | / | 講義 | 細胞を理解する | 講義範囲を予習・復習する。 |
| 14 | / | 試験 | 試験 | 試験範囲を勉強する。 |
| 15 | / | 講義 | 振り返り | 試験後、見直す。 |
| 準備学習 時間外学習 | | | 学校の図書やインターネットを利用して講義の範囲内を予習・復習する。 | |
| 【使用教科書・教材・参考書】 <input type="checkbox"/> | | | | |
| 「動物の体のしくみ 株式会社滋慶出版」「動物のからだの構造と機能 ファームプレス」 | | | | |

| | | | | | | | |
|------------|--|----------|-------------|-------------|-----------|------|--------------|
| 科目名 (英) | 公衆衛生 (Public Morality Health) | 必修 選択 | 必修・選択必修・選択等 | 年次 | 1 | 担当教員 | 高山清次 |
| 学科・コース | 動物・ペット学科昼間 I 部 | 授業 形態 | 講義・演習・実習等 | 総時間 (単位) | 30 (2) | 開講区分 | 前期 月曜日 2限 |
| 教員の略歴 | 1985年麻布大学大学院獣医学部博士課程修了、ブルークロス動物病院院長 | | | | | | |
| 授業の学習内容 | 疾病や健康増進のしくみを学び、理解し明確な知識を持って、動物関係の仕事をする時はもちろんのこと、日常生活においても、この知識を役立てる。 | | | | | | |
| 到達目標 | この科目を受講した学生が、動物飼育の仕事に携わる時、公衆衛生の知識を持って、行動できることを目標とする。 | | | | | | |
| 評価方法と基準 | 定期試験:80% 授業態度と参加度:20% | | | | | | |

| 授業計画・内容 | | | | |
|---|----|------|-----------------------------------|-------------------|
| 回数 | 日程 | 授業形態 | 学習内容 | 準備学習 時間外学習(学習課題) |
| 1 | / | 講義 | 公衆衛生の概要を把握する。 | 講義範囲を予習・復習する。 |
| 2 | / | 講義 | 動物のよい飼育環境を理解することができる。 | 講義範囲を予習・復習する。 |
| 3 | / | 講義 | ①環境衛生について理解することができる。 | 講義範囲を予習・復習する。 |
| 4 | / | 講義 | ②環境衛生について理解することができる。 | 講義範囲を予習・復習する。 |
| 5 | / | 講義 | 疾病の定義について理解することができる。 | 講義範囲を予習・復習する。 |
| 6 | / | 講義 | 防疫について、実践できる。 | 講義範囲を予習・復習する。 |
| 7 | / | 講義 | ①消毒のしくみについて理解することができる。 | 講義範囲を予習・復習する。 |
| 8 | / | 講義 | ②消毒のしくみについて理解することができる。 | 講義範囲を予習・復習する。 |
| 9 | / | 講義 | ①病原体について理解することができる。 | 講義範囲を予習・復習する。 |
| 10 | / | 講義 | ②病原体について理解することができる。 | 講義範囲を予習・復習する。 |
| 11 | / | 講義 | ワクチンの仕組みについて述べることができる。 | 講義範囲を予習・復習する。 |
| 12 | / | 講義 | ①ズーノーシスを理解することができる。 | 講義範囲を予習・復習する。 |
| 13 | / | 講義 | ②ズーノーシスの予防を実践することができる。 | 講義範囲を予習・復習する。 |
| 14 | / | 試験 | 評価試験 | 試験範囲を勉強し、試験後、見直す。 |
| 15 | / | 講義 | 評価試験返却・解説・まとめ | 試験範囲を振り返り、理解を深める。 |
| 準備学習 時間外学習 | | | 学校の図書やインターネットを利用して講義の範囲内を予習・復習する。 | |
| 【使用教科書・教材・参考書】 <input type="checkbox"/> | | | | |
| 学校の図書室にある公衆衛生関係の本やインターネットを利用する。 | | | | |

| | | | | | | | | |
|------------|---|----------------|----------|-----------------|-------------|------------|------|----------------|
| 科目名 (英) | トリミング (Practice of Trimming) | | 必修 選択 | 必修・選択必 修・選択等 | 年次 | 1 | 担当教員 | 三浦 悦子 |
| | 学科・コース | 動物・ペット学科昼間 I 部 | 授業 形態 | 講義・演習・実 習等 | 総時間 (単位) | 120 (8) | 開講区分 | 前期 木曜日 1・2限 |
| 教員の略歴 | 動物系専門学校卒業後、2003年～トリマーとしてペットショップ勤務を経て自営 | | | | | | | |
| 授業の学習内容 | 実際にモデル犬を使って、基本的な道具の使い方、犬の扱い方を学びながら、ベーシックを習得する | | | | | | | |
| 到達目標 | 基本的なグルーミング方法を身につけ、犬種別のベーシックが出来る様になる | | | | | | | |
| 評価方法と基準 | 1) 定期テスト80% 2) 出席数20% | | | | | | | |

| 授業計画・内容 | | | | |
|--------------------------------|----|------|--------------|------------------|
| 回数 | 日程 | 授業形態 | 学習内容 | 準備学習 時間外学習(学習課題) |
| 1 | / | 演習 | 道具の使い方が理解できる | 講義範囲の復習をする |
| 2 | / | 演習 | 演習の仕方が理解できる | 演習範囲の復習をする |
| 3 | / | 演習 | グルーミングが実践できる | 演習範囲の予習・復習をする |
| 4 | / | 演習 | グルーミングが実践できる | 演習範囲の予習・復習をする |
| 5 | / | 演習 | グルーミングが実践できる | 演習範囲の予習・復習をする |
| 6 | / | 演習 | グルーミングが実践できる | 演習範囲の予習・復習をする |
| 7 | / | 演習 | グルーミングが実践できる | 演習範囲の予習・復習をする |
| 8 | / | 演習 | グルーミングが実践できる | 演習範囲の予習・復習をする |
| 9 | / | 演習 | グルーミングが実践できる | 演習範囲の予習・復習をする |
| 10 | / | 演習 | グルーミングが実践できる | 演習範囲の予習・復習をする |
| 11 | / | 演習 | グルーミングが実践できる | 演習範囲の予習・復習をする |
| 12 | / | 演習 | グルーミングが実践できる | 演習範囲の予習・復習をする |
| 13 | / | 演習 | グルーミングが実践できる | 演習範囲の予習・復習をする |
| 14 | / | 試験 | 演習範囲 | 演習範囲の予習・復習をする |
| 15 | / | 演習 | まとめ | 演習範囲を振り返る |
| 準備学習 時間外学習 | | | | |
| 【使用教科書・教材・参考書】 □ グルーミングテキスト | | | | |

| | | | | | | | | |
|------------|---|----------------|----------|-----------------|-------------|------------|------|----------------|
| 科目名 (英) | トリミング (Practice of Trimming) | | 必修 選択 | 必修・選択必 修・選択等 | 年次 | 1 | 担当教員 | 三浦 悦子 |
| | 学科・コース | 動物・ペット学科昼間 I 部 | 授業 形態 | 講義・演習・実 習等 | 総時間 (単位) | 120 (8) | 開講区分 | 後期 木曜日 1・2限 |
| 教員の略歴 | 動物系専門学校卒業後、2003年～トリマーとしてペットショップ勤務を経て自営 | | | | | | | |
| 授業の学習内容 | 実際にモデル犬を使って、基本的な道具の使い方、犬の扱い方を学びながら、ベーシックを習得する | | | | | | | |
| 到達目標 | 基本的なグルーミング方法を身につけ、犬種別のベーシックが出来る様になる | | | | | | | |
| 評価方法と基準 | 1) 定期テスト80% 2) 出席数20% | | | | | | | |

| 授業計画・内容 | | | | |
|--------------------------------|----|------|--------------------|------------------|
| 回数 | 日程 | 授業形態 | 学習内容 | 準備学習 時間外学習(学習課題) |
| 1 | / | 演習 | グルーミング・トリミングが実践できる | 講義範囲の復習をする |
| 2 | / | 演習 | グルーミング・トリミングが実践できる | 演習範囲の復習をする |
| 3 | / | 演習 | グルーミング・トリミングが実践できる | 演習範囲の予習・復習をする |
| 4 | / | 演習 | グルーミング・トリミングが実践できる | 演習範囲の予習・復習をする |
| 5 | / | 演習 | グルーミング・トリミングが実践できる | 演習範囲の予習・復習をする |
| 6 | / | 演習 | グルーミング・トリミングが実践できる | 演習範囲の予習・復習をする |
| 7 | / | 演習 | グルーミング・トリミングが実践できる | 演習範囲の予習・復習をする |
| 8 | / | 演習 | グルーミング・トリミングが実践できる | 演習範囲の予習・復習をする |
| 9 | / | 演習 | グルーミング・トリミングが実践できる | 演習範囲の予習・復習をする |
| 10 | / | 演習 | グルーミング・トリミングが実践できる | 演習範囲の予習・復習をする |
| 11 | / | 演習 | グルーミング・トリミングが実践できる | 演習範囲の予習・復習をする |
| 12 | / | 演習 | グルーミング・トリミングが実践できる | 演習範囲の予習・復習をする |
| 13 | / | 演習 | グルーミング・トリミングが実践できる | 演習範囲の予習・復習をする |
| 14 | / | 試験 | 演習範囲 | 演習範囲の予習・復習をする |
| 15 | / | 演習 | まとめ | 演習範囲を振り返る |
| 準備学習 時間外学習 | | | | |
| 【使用教科書・教材・参考書】 □ グルーミングテキスト | | | | |

| | | | | | | | |
|-------------|--|----------|-----------------|-------------|-------------|------|--------------|
| 科目名 (英) | ショップ演習 (Shop Exercise) | 必修 選択 | 必修・選択 必修・選択等 | 年次 | 1 | 担当教員 | 三田 舞 |
| 学科・コース | 動物・ペット学科昼間 I 部 | 授業 形態 | 講義・演習・実 習等 | 総時間 (単位) | 60 (4) | 開講区分 | 前期 土曜日 3限 |
| 教員の略歴 | 動物系専門学校卒業後、2003年～2009年ペットショップ勤務を経て2009年Animal Family 開業 | | | | | | |
| 授業の学習内 容 | 5世帯に1世帯が犬をペットとして飼っている日本の現状において、本専攻学生が卒業後に果たす役割は業界のみならず、社会全体にとっても大きくなっている。そのスキルを最大限に生かすためには、飼い主の持つ「マインド」を理解し、専門知識と経験を飼い主や顧客に効率的・効果的に伝える方法を習得することが有効である。その力量を持つ業界を担う人材の育成のため、飼い主に伝える知識の習得と飼い主とのコミュニケーションスキル向上を目的とする。 | | | | | | |
| 到達目標 | 専門家としてのスキルを最大限いかすべく、以下の能力の形成を目標とする。 1) 飼い主が犬と暮らす上で、疑問や問題に回答出来る知識力 2) 犬についての知識や経験を正確に伝えるコミュニケーション能力 3) 飼い主と犬を客観的に判断するための観察力 4) 自己のトレーニング能力を個別の案件に対応させる想像力 | | | | | | |
| 評価方法と基準 | 定期試験:80% 授業態度と参加度:20% | | | | | | |

| 授業計画・内容 | | | | |
|------------------|----|--|---|------------------|
| 回数 | 日程 | 授業形態 | 学習内容 | 準備学習 時間外学習(学習課題) |
| 1 | / | 演習 | 半期の授業内容を説明し、当科目の明確な学びの目的、目標、方法を理解することができる。 | 授業範囲を予習・復習する。 |
| 2 | / | 演習 | この講義の持つ役割と飼主の心理と愛犬との関係の見方、飼主への対応方法の基礎を学習する。 | 授業範囲を予習・復習する。 |
| 3 | / | 演習 | 人間社会とイヌとの関わりを歴史的に振り返りながら学習し「犬は家族の一員」という近年いわれるようになった背景とその現状を理解する | 授業範囲を予習・復習する。 |
| 4 | / | 演習 | 人間社会とイヌとの関わりを歴史的に振り返りながら学習し「犬は家族の一員」という近年いわれるようになった背景とその現状を理解する | 授業範囲を予習・復習する。 |
| 5 | / | 演習 | それぞれの犬種の持つ特徴を理解し、飼い主が持つイメージとのギャップを理解する。 | 授業範囲を予習・復習する。 |
| 6 | / | 演習 | 飼い主が知っておいた方がよいレベルの犬の体と能力を確認し、基本的な質問等に答えられるようにする。 | 授業範囲を予習・復習する。 |
| 7 | / | 演習 | 飼い主が知っておいた方がよいレベルの犬の体と能力を確認し、基本的な質問等に答えられるようにする。 | 授業範囲を予習・復習する。 |
| 8 | / | 演習 | 犬の本能と習性を学び、「飼い主が犬と暮らす」ために必要な知識の理解と飼い主への適切なアドバイス方法を学習する。 | 授業範囲を予習・復習する。 |
| 9 | / | 演習 | 犬の本能と習性を学び、「飼い主が犬と暮らす」ために必要な知識の理解と飼い主への適切なアドバイス方法を学習する。 | 授業範囲を予習・復習する。 |
| 10 | / | 演習 | 犬の日常の健康状態のチェック方法や怪我の応急処置、初期の対応方法を理解し、飼い主への適切なアドバイスが行えるようになる | 授業範囲を予習・復習する。 |
| 11 | / | 演習 | 犬の日常の健康状態のチェック方法や怪我の応急処置、初期の対応方法を理解し、飼い主への適切なアドバイスが行えるようになる | 授業範囲を予習・復習する。 |
| 12 | / | 演習 | 現在の保護活動についての現状を知ることができる | 授業範囲を予習・復習する。 |
| 13 | / | 演習 | 現在の保護活動についての現状を知ることができる | 授業範囲を予習・復習する。 |
| 14 | / | 試験 | 筆記試験 | 試験範囲を予習・復習する。 |
| 15 | / | 演習 | テスト結果の振り返りを行うことでこの授業の理解をさらに深める | 授業範囲を予習・復習する。 |
| 準備学習 時間外学習 | | 事後学習を通じてより深く学び、事前学習を行うことで授業内での学びの展開を促す | | |
| 【使用教科書・教材・参考書】 □ | | | | |
| 必要に応じて随時参考資料等を使用 | | | | |

| | | | | | | | |
|-------------|--|----------|---------------------------------|-------------|-------------|------|--------------|
| 科目名 (英) | ショップ演習 (Shop Exercise) | 必修 選択 | <small>必修・選択必 修・選択等</small> | 年次 | 1 | 担当教員 | 三田 舞 |
| 学科・コース | 動物・ペット学科昼間Ⅰ部 | 授業 形態 | <small>講義・演習・実 習等</small> | 総時間 (単位) | 60 (4) | 開講区分 | 後期 土曜日 3限 |
| 教員の略歴 | 動物系専門学校卒業後、2003年～2009年ペットショップ勤務を経て2009年Animal Family 開業 | | | | | | |
| 授業の学習内 容 | 5世帯に1世帯が犬をペットとして飼っている日本の現状において、本専攻学生が卒業後に果たす役割は業界のみならず、社会全体にとっても大きくなっている。そのスキルを最大限に生かすためには、飼い主の持つ「マインド」を理解し、専門知識と経験を飼い主や顧客に効率的・効果的に伝える方法を習得することが有効である。その力量を持つ業界を担う人材の育成のため、飼い主に伝える知識の習得と飼い主とのコミュニケーションスキル向上を目的とする。 | | | | | | |
| 到達目標 | 専門家としてのスキルを最大限いかすべく、以下の能力の形成を目標とする。 1) 飼い主が犬と暮らす上でもつ、疑問や問題に回答出来る知識力 2) 犬についての知識や経験を正確に伝えるコミュニケーション能力 3) 飼い主と犬を客観的に判断するための観察力 4) 自己のトレーニング能力を個別の案件に対応させる想像力 | | | | | | |
| 評価方法と基準 | 定期試験:80% 授業態度と参加度:20% | | | | | | |

| 授業計画・内容 | | | | | |
|------------------|----|--|---|------|---------------|
| 回数 | 日程 | 授業形態 | 学習内容 | 準備学習 | 時間外学習(学習課題) |
| 1 | / | 演習 | ドッグスポーツ、ドッグイベント等のイベントの組み立てができるようになる | | 授業範囲を予習・復習する。 |
| 2 | / | 演習 | ドッグスポーツ、ドッグイベント等のイベントの組み立てができるようになる | | 授業範囲を予習・復習する。 |
| 3 | / | 演習 | 飼い主の相談にどう対応し、どう答えていくかをプロとして身につける | | 授業範囲を予習・復習する。 |
| 4 | / | 演習 | 飼い主の相談にどう対応し、どう答えていくかをプロとして身につける | | 授業範囲を予習・復習する。 |
| 5 | / | 演習 | 飼い主の相談にどう対応し、どう答えていくかをプロとして身につける | | 授業範囲を予習・復習する。 |
| 6 | / | 演習 | 日常生活の中で多く見られる、飼い主の相談事例を使用しながら実践的な解決方法の検討とその伝え方を習得する。 | | 授業範囲を予習・復習する。 |
| 7 | / | 演習 | 飼い主が知っておいた方がよいレベルの犬の体と能力を確認し、基本的な質問等に答えられるようにする。 | | 授業範囲を予習・復習する。 |
| 8 | / | 演習 | 飼い主が知っておいた方がよいレベルの犬の体と能力を確認し、基本的な質問等に答えられるようにする。 | | 授業範囲を予習・復習する。 |
| 9 | / | 演習 | 飼い主が知っておいた方がよいレベルの犬の体と能力を確認し、基本的な質問等に答えられるようにする。 | | 授業範囲を予習・復習する。 |
| 10 | / | 演習 | 犬の日常の健康状態のチェック方法や怪我の応急処置、初期の対応方法を理解し、飼い主への適切なアドバイスが行えるようになる | | 授業範囲を予習・復習する。 |
| 11 | / | 演習 | 犬の日常の健康状態のチェック方法や怪我の応急処置、初期の対応方法を理解し、飼い主への適切なアドバイスが行えるようになる | | 授業範囲を予習・復習する。 |
| 12 | / | 演習 | 身体障害者補助犬法についての理解を深める | | 授業範囲を予習・復習する。 |
| 13 | / | 演習 | 身体障害者補助犬法についての理解を深める | | 授業範囲を予習・復習する。 |
| 14 | / | 試験 | 筆記試験 | | 試験範囲を予習・復習する。 |
| 15 | / | 演習 | テスト結果の振り返りを行うことでこの講義の理解をさらに深める | | 授業範囲を予習・復習する。 |
| 準備学習 時間外学習 | | 事後学習を通じてより深く学び、事前学習を行うことで授業内での学びの展開を促す | | | |
| 【使用教科書・教材・参考書】 □ | | | | | |
| 必要に応じて随時参考資料等を使用 | | | | | |

| | | | | | | | |
|------------|--|----------|------------------|-------------|------------|------|----------------|
| 科目名 (英) | 動物看護 (Animal Nursing) | 必修 選択 | 必修(選択必修・選 択等) | 年次 | 1 | 担当教員 | 鈴木 莉紗 |
| 学科・コース | 動物・ペット学科昼間 I 部 | 授業 形態 | 講義・演習(実習等) | 総時間 (単位) | 120 (8) | 開講区分 | 前期 水曜日 2・3限 |
| 教員の略歴 | 動物系専門学校卒業後、2009年～動物病院に動物看護師として勤務現在に至る | | | | | | |
| 授業の学習内容 | 犬や猫の日常的な健康管理や内科診療の補助に必要な手技など、学んだ知識の実践力を習得する。 | | | | | | |
| 到達目標 | 健康管理や各検査の目的や意義を理解し、正確に行うことができる。 | | | | | | |
| 評価方法と基準 | 定期試験 80% 出席率 20% | | | | | | |

| 授業計画・内容 | | | | |
|-------------------------|----|-------|------------------------------|-------------------|
| 回数 | 日程 | 授業形態 | 学習内容 | 準備学習 時間外学習(学習課題) |
| 1 | / | 講義・実習 | バイタルチェック、全身チェックを理解し、行うことができる | 授業範囲の予習と復習 |
| 2 | / | 実習 | バイタルチェック、全身チェックを理解し、行うことができる | 授業範囲の予習と復習 |
| 3 | / | 講義・実習 | 糞便検査について理解し、行うことができる | 授業範囲の予習と復習 |
| 4 | / | 実習 | 糞便検査について理解し、行うことができる | 授業範囲の予習と復習 |
| 5 | / | 実習 | 糞便検査について理解し、行うことができる | 授業範囲の予習と復習 |
| 6 | / | 実習 | 糞便検査について理解し、行うことができる | 授業範囲の予習と復習 |
| 7 | / | 実習 | 糞便検査について理解し、行うことができる | 授業範囲の予習と復習 |
| 8 | / | 講義・実習 | 尿検査について理解し、行うことができる | 授業範囲の予習と復習 |
| 9 | / | 実習 | 尿検査について理解し、行うことができる | 授業範囲の予習と復習 |
| 10 | / | 実習 | 尿検査について理解し、行うことができる | 授業範囲の予習と復習 |
| 11 | / | 実習 | 尿検査について理解し、行うことができる | 授業範囲の予習と復習 |
| 12 | / | 実習 | 尿検査について理解し、行うことができる | 授業範囲の予習と復習 |
| 13 | / | 講義・実習 | 調剤について理解し、行うことができる | 授業範囲の予習と復習 |
| 14 | / | | 試験 | 今までの演習内容を行う |
| 15 | / | | 振り返り | 試験範囲を振り返り、理解を深める。 |
| 準備学習 時間外学習 | | | | |
| 【使用教科書・教材・参考書】 □ | | | | |
| 動物看護コアテキスト 動物看護の実践 第2版5 | | | | |

| | | | | | | | |
|------------|--|----------|------------------|-------------|------------|------|----------------|
| 科目名 (英) | 動物看護 (Animal Nursing) | 必修 選択 | 必修(選択必修・選 択等) | 年次 | 1 | 担当教員 | 鈴木 莉紗 |
| 学科・コース | 動物・ペット学科昼間 I 部 | 授業 形態 | 講義・演習・実習等 | 総時間 (単位) | 120 (8) | 開講区分 | 後期 水曜日 2・3限 |
| 教員の略歴 | 動物系専門学校卒業後、2009年～動物病院に動物看護師として勤務現在に至る | | | | | | |
| 授業の学習内容 | 日常健康管理に関わる飼い主教育や事前問診、入院動物の容態説明、院内における他スタッフとのコミュニケーションの基礎を学ぶ。 | | | | | | |
| 到達目標 | これまでに学習した専門知識を活用し、健康維持・適性飼養の啓発と個別に応じたご家族教育・指導を通じて、ヒトと動物のよりよい共生を目指し、事例を用いて説明できるようになる。 | | | | | | |
| 評価方法と基準 | 定期試験 60% 出席率 40% | | | | | | |

| 授業計画・内容 | | | | |
|-------------------------|----|-------|---|-------------------|
| 回数 | 日程 | 授業形態 | 学習内容 | 準備学習 時間外学習(学習課題) |
| 1 | / | 講義 | クライアントエデュケーション概論を理解することができる | 授業範囲の予習と復習 |
| 2 | / | 講義 | 家庭で行われる健康管理と医療現場で行われる健康管理を理解することができる | 授業範囲の予習と復習 |
| 3 | / | 講義・実習 | しつけ・日常の健康チェックについて理解し、説明することができる | 授業範囲の予習と復習 |
| 4 | / | 講義・実習 | 人獣共通感染症について理解し、説明することができる | 授業範囲の予習と復習 |
| 5 | / | 講義・実習 | 狂犬病について理解し、説明することができる | 授業範囲の予習と復習 |
| 6 | / | 講義・実習 | 犬・猫の混合ワクチンについて理解し、説明することができる | 授業範囲の予習と復習 |
| 7 | / | 講義・実習 | 犬糸状虫(フィラリア症)について理解し、説明することができる | 授業範囲の予習と復習 |
| 8 | / | 講義・実習 | ノミ・マダニ予防について理解し、説明することができる | 授業範囲の予習と復習 |
| 9 | / | 講義・実習 | 不妊・去勢手術について理解し、説明することができる | 授業範囲の予習と復習 |
| 10 | / | 講義・実習 | 外来および電話対応方法とクレームの対処方法について理解し、説明することができる | 授業範囲の予習と復習 |
| 11 | / | 講義 | 院内コミュニケーションの必要性について理解し、説明することができる | 授業範囲の予習と復習 |
| 12 | / | 講義 | 院内マネジメント、スタッフのメンタルヘルスについて理解し、説明することができる | 授業範囲の予習と復習 |
| 13 | / | 講義 | グリーフケアの方法、展開について理解し、説明することができる | 授業範囲の予習と復習 |
| 14 | / | 試験 | 試験 | 今までの演習内容を行う |
| 15 | / | 講義・演習 | 振り返り | 試験範囲を振り返り、理解を深める。 |
| 準備学習 時間外学習 | | | | |
| 【使用教科書・教材・参考書】 □ | | | | |
| 動物看護コアテキスト 動物看護の基礎 第2版5 | | | | |

| | | | | | | | |
|------------|--|----------|-----------------|-------------|------------|------|----------------|
| 科目名 (英) | ドッグトレーニング (Dog Training) | 必修 選択 | 必修・選択必 修・選択等 | 年次 | 1 | 担当教員 | 南條 絵美 |
| 学科・コース | 動物・ペット学科昼間 I 部 | 授業 形態 | 講義・演習・実 習等 | 総時間 (単位) | 120 (8) | 開講区分 | 前期 土曜日 1・2限 |
| 教員の略歴 | JKC公認訓練士、1999年～2003年警察犬大場訓練所勤務、動物系専門学校にてドッグトレーニングの非常勤講師を務める | | | | | | |
| 授業の学習内容 | 犬のトレーニングに必要な基礎知識を理解するための講義と、実際に犬を使った演習を行うことによりより深くトレーニングを理解する授業です。 自分自身がしっかりとトレーニングを理解する事により、犬が理解しやすいトレーニングを習得します。 ※ 実際に犬を使ったトレーニングを行う授業のため、内容に変更のある場合があります。 | | | | | | |
| 到達目標 | 犬の本能を利用したトレーニング方法を使い、基本動作を犬に教えることが出来る。 後期及び、進級後に備えアマチュアにトレーニング方法を理解しやすく説明出来る様になる。 | | | | | | |
| 評価方法と基準 | <ul style="list-style-type: none"> 定期試験(筆記試験) 60% 講義・演習中の態度及び、トレーニング成果 40% | | | | | | |

| 授業計画・内容 | | | | |
|--|----|-------|---|------------------|
| 回数 | 日程 | 授業形態 | 学習内容 | 準備学習 時間外学習(学習課題) |
| 1 | | 講義・演習 | 担当犬の理解 (実際に犬と接することにより、性格を読み取り犬具の装・脱着が出来る) | 学校飼育犬及び、担当犬の管理 |
| 2 | | 講義・演習 | 招呼(呼び戻し)を教えることが出来る | 学校飼育犬及び、担当犬の管理 |
| 3 | | 講義・演習 | 誘惑がある状況での招呼を教えることが出来る | 学校飼育犬及び、担当犬の管理 |
| 4 | | 講義・演習 | 脚側意識の基礎を教えることが出来る | 学校飼育犬及び、担当犬の管理 |
| 5 | | 講義・演習 | 脚側行進の基礎を教えることが出来る | 学校飼育犬及び、担当犬の管理 |
| 6 | | 講義・演習 | ハウスを教えることが出来る | 学校飼育犬及び、担当犬の管理 |
| 7 | | 講義・演習 | 伏臥を教えることが出来る | 学校飼育犬及び、担当犬の管理 |
| 8 | | 講義・演習 | 脚側意識の応用を教えることが出来る | 学校飼育犬及び、担当犬の管理 |
| 9 | | 講義・演習 | 脚側行進の応用を教えることが出来る | 学校飼育犬及び、担当犬の管理 |
| 10 | | 講義・演習 | 声符・視符を正しく使うことが出来る | 学校飼育犬及び、担当犬の管理 |
| 11 | | 講義・演習 | JKC 家庭犬訓練試験の規定を理解する | 学校飼育犬及び、担当犬の管理 |
| 12 | | 講義・演習 | JKC CD-1の規定を教えることが出来る | 学校飼育犬及び、担当犬の管理 |
| 13 | | 講義・演習 | JKC CD-1の規定を教えることが出来る | 学校飼育犬及び、担当犬の管理 |
| 14 | | 試験 | 試験 (筆記試験) | 学校飼育犬及び、担当犬の管理 |
| 15 | | 講義・演習 | 前期の講義と演習を振り返り、総合的な理解を深める | 学校飼育犬及び、担当犬の管理 |
| 準備学習 時間外学習 | | | 校外研修では授業で学んだことを確認してより深い知識としてください。 | |
| 【使用教科書・教材・参考書】 □ | | | | |
| 社団法人 日本動物園水族館協会発行 新飼育ハンドブック 水族館編 第1・2・3集 | | | | |

| | | | | | | | |
|------------|--|----------|-----------------|-------------|------------|------|----------------|
| 科目名 (英) | ドッグトレーニング (Dog Training) | 必修 選択 | 必修・選択必 修・選択等 | 年次 | 1 | 担当教員 | 南條 絵美 |
| 学科・コース | 動物・ペット学科昼間 I 部 | 授業 形態 | 講義・演習・実 習等 | 総時間 (単位) | 120 (8) | 開講区分 | 後期 土曜日 1・2限 |
| 教員の略歴 | JKC公認訓練士、1999年～2003年警察犬大場訓練所勤務、動物系専門学校にてドッグトレーニングの非常勤講師を務める | | | | | | |
| 授業の学習内容 | 犬のトレーニングに必要な基礎知識を理解するための講義と、実際に犬を使った演習を行うことによりより深くトレーニングを理解する授業です。 自分自身がしっかりとトレーニングを理解する事により、犬が理解しやすいトレーニングを習得します。 ※ 実際に犬を使ったトレーニングを行う授業のため、内容に変更のある場合があります。 | | | | | | |
| 到達目標 | 犬の本能を利用したトレーニング方法を使い、基本動作を犬に教えることが出来る。 後期及び、進級後に備えアマチュアにトレーニング方法を理解しやすく説明出来る様になる。 | | | | | | |
| 評価方法と基準 | <ul style="list-style-type: none"> 定期試験(筆記試験) 60% 講義・演習中の態度及び、トレーニング成果 40% | | | | | | |

| 授業計画・内容 | | | | |
|--|----|-------|---|------------------|
| 回数 | 日程 | 授業形態 | 学習内容 | 準備学習 時間外学習(学習課題) |
| 1 | | 講義・演習 | 担当犬の理解 (実際に犬と接することにより、性格を読み取り犬具の装・脱着が出来る) | 学校飼育犬及び、担当犬の管理 |
| 2 | | 講義・演習 | 招呼(呼び戻し)を教えることが出来る | 学校飼育犬及び、担当犬の管理 |
| 3 | | 講義・演習 | 誘惑がある状況での招呼を教えることが出来る | 学校飼育犬及び、担当犬の管理 |
| 4 | | 講義・演習 | 脚側意識の基礎を教えることが出来る | 学校飼育犬及び、担当犬の管理 |
| 5 | | 講義・演習 | 脚側行進の基礎を教えることが出来る | 学校飼育犬及び、担当犬の管理 |
| 6 | | 講義・演習 | ハウスを教えることが出来る | 学校飼育犬及び、担当犬の管理 |
| 7 | | 講義・演習 | 伏臥を教えることが出来る | 学校飼育犬及び、担当犬の管理 |
| 8 | | 講義・演習 | 脚側意識の応用を教えることが出来る | 学校飼育犬及び、担当犬の管理 |
| 9 | | 講義・演習 | 脚側行進の応用を教えることが出来る | 学校飼育犬及び、担当犬の管理 |
| 10 | | 講義・演習 | 声符・視符を正しく使うことが出来る | 学校飼育犬及び、担当犬の管理 |
| 11 | | 講義・演習 | JKC 家庭犬訓練試験の規定を理解する | 学校飼育犬及び、担当犬の管理 |
| 12 | | 講義・演習 | JKC CD-1の規定を教えることが出来る | 学校飼育犬及び、担当犬の管理 |
| 13 | | 講義・演習 | JKC CD-1の規定を教えることが出来る | 学校飼育犬及び、担当犬の管理 |
| 14 | | 試験 | 試験 (筆記試験) | 学校飼育犬及び、担当犬の管理 |
| 15 | | 講義・演習 | 講義と演習を振り返り、総合的な理解を深める | 学校飼育犬及び、担当犬の管理 |
| 準備学習 時間外学習 | | | 校外研修では授業で学んだことを確認してより深い知識としてください。 | |
| 【使用教科書・教材・参考書】 <input type="checkbox"/> | | | | |
| 社団法人 日本動物園水族館協会発行 新飼育ハンドブック 水族館編 第1・2・3集 | | | | |

| | | | | | | | |
|------------|---|----------|-------------|-------------|-----------|------|--------------|
| 科目名 (英) | 動物園研究 () | 必修 選択 | 必修・選択必修・選択等 | 年次 | 1 | 担当教員 | 橋川 俊行 |
| 学科・コース | 動物・ペット学科昼間Ⅰ部 | 授業 形態 | 講義・演習・実習等 | 総時間 (単位) | 60 (4) | 開講区分 | 前期 金曜日 3限 |
| 教員の略歴 | 日本動物園水族館協会飼育技師(哺乳類、水族)認定資格、1982年～横浜市立動物園飼育員を経てペット総合商社(ミヤザワ) | | | | | | |
| 授業の学習内容 | 動物関連施設に関する学習、自身の長年関わってきた経験をもとに実際の現場実状を伝える。 | | | | | | |
| 到達目標 | 動物飼育技術者の育成 | | | | | | |
| 評価方法と基準 | 筆記試験80%、出席日数20% | | | | | | |

| 授業計画・内容 | | | | |
|-------------------------------|----|------|----------------------|------------------|
| 回数 | 日程 | 授業形態 | 学習内容 | 準備学習 時間外学習(学習課題) |
| 1 | | 講義 | 自己紹介、授業の進め方 | |
| 2 | | 講義 | (動物園の概要)を理解する | 飼育ハンドブック3 |
| 3 | | 講義 | DVD(野生保護に生きる人々)を理解する | 感想文提出 |
| 4 | | 講義 | 動物園・水族館の目的を理解する | 飼育ハンドブック3 |
| 5 | | 講義 | 仙台市立八木山動物園の仕事を理解する | レポート提出 |
| 6 | | 講義 | 仙台市立八木山動物園の仕事を理解する | レポート提出 |
| 7 | | 講義 | 日動水の役目を理解する | 飼育ハンドブック3 |
| 8 | | 講義 | 国内法令、天然記念物を理解する | 飼育ハンドブック3 |
| 9 | | 講義 | 国際条約(ワシントン条約)を理解する | 飼育ハンドブック3 |
| 10 | | 講義 | (分類)種とは、分類体系を理解する | 飼育ハンドブック3 |
| 11 | | 講義 | (生理)感覚器官を理解する | 飼育ハンドブック3 |
| 12 | | 講義 | 繁殖を理解する | 飼育ハンドブック3 |
| 13 | | 講義 | DVD(象 列車がやってきた)を理解する | 感想文 |
| 14 | | 試験 | 試験 | |
| 15 | | 講義 | まとめ | |
| 準備学習 時間外学習 | | | | |
| 【使用教科書・教材・参考書】 □ 飼育ハンドブック3 | | | | |

| | | | | | | | |
|------------|---|----------|-----------------|-------------|-----------|------|--------------|
| 科目名 (英) | 動物園研究 () | 必修 選択 | 必修・選択必 修・選択等 | 年次 | 1 | 担当教員 | 橋川 俊行 |
| 学科・コース | 動物・ペット学科昼間Ⅰ部 | 授業 形態 | 講義・演習・実 習等 | 総時間 (単位) | 60 (4) | 開講区分 | 後期 金曜日 3限 |
| 教員の略歴 | 日本動物園水族館協会飼育技師(哺乳類、水族)認定資格、1982年～横浜市立動物園飼育員を経てペット総合商社(ミヤザワ) | | | | | | |
| 授業の学習内容 | 動物関連施設に関する学習、自身の長年関わってきた経験をもとに実際の現場実状を伝える。 | | | | | | |
| 到達目標 | 動物飼育技術者の育成 | | | | | | |
| 評価方法と基準 | 筆記試験80%、出席日数20% | | | | | | |

| 授業計画・内容 | | | | |
|-------------------------------|----|------|-------------------------|-------------------|
| 回数 | 日程 | 授業形態 | 学習内容 | 準備学習 時間外学習(学習課題) |
| 1 | | 講義 | 日本の動物園が辿った歴史を説明できる | 授業範囲の予習と復習 |
| 2 | | 講義 | 現代社会における動物園の役割を説明できる | 授業範囲の予習と復習 |
| 3 | | 講義 | 動物園に関わる法律について記述することができる | 授業範囲の予習と復習 |
| 4 | | 講義 | 動物の分類表記を記述することができる | 授業範囲の予習と復習 |
| 5 | | 講義 | 種と亜種の違いを説明できる | 授業範囲の予習と復習 |
| 6 | | 講義 | 動物園の展示の工夫を説明できる | 授業範囲の予習と復習 |
| 7 | | 講義 | 動物が感じるストレスの仕組みを説明できる | 授業範囲の予習と復習 |
| 8 | | 講義 | 動物のストレス軽減への取り組みを実践できる | 授業範囲の予習と復習 |
| 9 | | 講義 | 動物福祉の概念について説明できる | 授業範囲の予習と復習 |
| 10 | | 講義 | 動物福祉の概念について説明できる | 授業範囲の予習と復習 |
| 11 | | 講義 | 八木山動物園の動物管理を理解する | 授業範囲の予習と復習 |
| 12 | | 講義 | 八木山動物園の動物管理を理解する | 授業範囲の予習と復習 |
| 13 | | 講義 | 試験対策 | 授業範囲の予習と復習 |
| 14 | | 試験 | 試験 | 今までの演習内容を行う |
| 15 | | 講義 | 振り返り、誤解答を説明できる | 試験範囲を振り返り、理解を深める。 |
| 準備学習 時間外学習 | | | | |
| 【使用教科書・教材・参考書】 □ 飼育ハンドブック3 | | | | |

| | | | | | | | |
|-------------|--|----------|-------------|-------------|-----------|------|--------------|
| 科目名 | 畜産飼養 | 必修 選択 | 必修・選択必修・選択等 | 年次 | 1 | 担当教員 | 長嶺 幸介 |
| 学科・コース | 動物・ペット学科昼間Ⅰ部 | 授業 形態 | 講義・演習・実習等 | 総時間 (単位) | 60 (4) | 開講区分 | 前期 月曜日 3限 |
| 教員の略歴 | 1989年～1992年競走馬生産牧場、1992年～1996年乗馬クラブ、1996年～2000年ペットショップ、移動動物園勤務 | | | | | | |
| 授業の学習 内容 | 家畜化の歴史や人との関わりを理解し、適切な飼養管理ができ、適切な扱いを行えるようになるための知識、技術を学ぶ | | | | | | |
| 到達目標 | 基本的な知識、技術を習得し、畜産動物の飼養管理に携わる時、適切な管理を行えるようになることを目標とする | | | | | | |
| 評価方法 と基準 | 筆記試験80% 授業態度、参加率20% | | | | | | |

| 授業計画・内容 | | | | |
|------------------|----|------|--------------------|------------------|
| 回数 | 日程 | 授業形態 | 学習内容 | 準備学習 時間外学習(学習課題) |
| 1 | | 講義 | 畜産動物とは何か知ることができる | 講義範囲の予習・復習する |
| 2 | | 講義 | 山羊の家畜化・原種について理解できる | 講義範囲の予習・復習する |
| 3 | | 講義 | 山羊の品種や習性について理解できる | 講義範囲の予習・復習する |
| 4 | | 講義 | 山羊の行動や特性について理解できる | 講義範囲の予習・復習する |
| 5 | | 講義 | 綿羊の家畜化・原種について理解できる | 講義範囲の予習・復習する |
| 6 | | 講義 | 綿羊の品種や習性について理解できる | 講義範囲の予習・復習する |
| 7 | | 講義 | 綿羊の行動や特性について理解できる | 講義範囲の予習・復習する |
| 8 | | 講義 | 山羊と綿羊の病気について理解できる | 講義範囲の予習・復習する |
| 9 | | 講義 | 豚の家畜化・原種について理解できる | 講義範囲の予習・復習する |
| 10 | | 講義 | 豚の品種や習性について理解できる | 講義範囲の予習・復習する |
| 11 | | 講義 | 豚の行動や特性について理解できる | 講義範囲の予習・復習する |
| 12 | | 講義 | 牛の家畜化・原種について理解できる | 講義範囲の予習・復習する |
| 13 | | 講義 | 牛の品種や習性について理解できる | 講義範囲の予習・復習する |
| 14 | | 試験 | 筆記試験 | 試験範囲を勉強し、試験後見直す |
| 15 | | 講義 | 振り返り | 試験範囲を振り返り、理解を深める |
| 準備学習 時間外学習 | | | | |
| 【使用教科書・教材・参考書】 □ | | | | |
| 必要に応じて随時参考資料等を使用 | | | | |

| | | | | | | | |
|-------------|--|----------|-------------|-------------|-----------|------|--------------|
| 科目名 | 畜産飼養 | 必修 選択 | 必修・選択必修・選択等 | 年次 | 1 | 担当教員 | 長嶺 幸介 |
| 学科・コース | 動物・ペット学科昼間Ⅰ部 | 授業 形態 | 講義・演習・実習等 | 総時間 (単位) | 60 (4) | 開講区分 | 後期 月曜日 3限 |
| 教員の略歴 | 1989年～1992年競走馬生産牧場、1992年～1996年乗馬クラブ、1996年～2000年ペットショップ、移動動物園勤務 | | | | | | |
| 授業の学習 内容 | 家畜化の歴史や人との関わりを理解し、適切な飼養管理ができ、適切な扱いを行えるようになるための知識、技術を学ぶ | | | | | | |
| 到達目標 | 基本的な知識、技術を習得し、畜産動物の飼養管理に携わる時、適切な管理を行えるようになることを目標とする | | | | | | |
| 評価方法 と基準 | 筆記試験80% 授業態度、参加率20% | | | | | | |

| 授業計画・内容 | | | | |
|---|----|------|------------------------------|-----------------------------|
| 回数 | 日程 | 授業形態 | 学習内容 | 準備学習 時間外学習(学習課題) |
| 1 | | 講義 | 馬と人の関わりについて理解できる | 馬について自分で持つイメージを一言でまとめる |
| 2 | | 講義 | 馬の分類・品種などについて理解できる | 前回の授業のノートを必ず読む |
| 3 | | 講義 | 馬の食性と飼料について理解できる | 前回の授業のノートを必ず読む |
| 4 | | 講義 | 馬の食性以外の習性について理解できる | 前回の授業のノートを必ず読む |
| 5 | | 講義 | 感覚器の構造と特徴について理解できる | 前回の授業のノートとプリントを必ず読む |
| 6 | | 講義 | 馬体の特徴や、名称、蹄と削蹄・装蹄などについて理解できる | 前回の授業のノートとプリントを必ず読む |
| 7 | | 講義 | 馬の保定方法と必要な道具と使い方を理解できる | 前回の授業のノートとプリントを必ず読む |
| 8 | | 講義 | ロープワーク技術を身につける | 前回の授業のノートとプリントを必ず読む |
| 9 | | 講義 | ロープワーク技術を身につける | 前回の授業で行ったロープの結び方を家で必ず復習してくる |
| 10 | | 講義 | 飼養する馬の登録について理解できる | 前回の授業で行ったロープの結び方を家で必ず復習してくる |
| 11 | | 講義 | 馬の個体識別方法について理解できる | 前回の授業のノートとプリントを必ず読む |
| 12 | | 講義 | 馬の悪癖について理解できる | 前回の授業のノートとプリントを必ず読む |
| 13 | | 講義 | 馬具の名称と使用方法を理解し正しく扱うことができる | 前回の授業のノートとプリントを必ず読む |
| 14 | | 試験 | 筆記試験 | 前回までの授業のノートとプリント必ず読む |
| 15 | | 講義 | 乗馬について、形式や騎乗者資格などについて理解できる | 前回までの授業のノートとプリント必ず読む |
| 準備学習 時間外学習 | | | | |
| 【使用教科書・教材・参考書】 □ | | | | |
| 教科書はなし 必要に応じて随時参考資料等を使用 馬具や手入れ道具・ロープ・ビデオなどを使用 | | | | |

| | | | | | | | |
|------------|--|--------------|-------------|-------------|-----------|------|--------------|
| 科目名 (英) | クラフトワーク (craft work) | 必修 選択 | 必修・選択必修・選択等 | 年次 | 1 | 担当教員 | 渡辺 尋志 |
| | 学科・コース | 動物・ペット学科昼間Ⅰ部 | 授業 形態 | 総時間 (単位) | 60 (4) | 開講区分 | 前期 木曜日 3限 |
| 教員の略歴 | 1990年より彫刻家として独立、日本美術家連盟会員、新制作協会会員、 | | | | | | |
| 授業の学習内容 | 生き物に関わる人間にとって大切なことは観察することそして考えること。何かを形にするためには対象物を観察し何故この形になったのかを考えることで辻褃の合ったものが出来上がります。絵を描き、粘土や針金で形を作り出す時自分自身の制作物を客観的にとらえ間違いや過不足箇所を的確に訂正できる勇気を養ってほしい。興味があるものだけでなくすべての事柄に対して考えることの重要性を理解して欲しい。また、そこに付随して生態や現在の問題点、それに対しての自分なりの解決策まで考察できる力が付くことを目指したい。 | | | | | | |
| 到達目標 | <ul style="list-style-type: none"> ・生き物の名称を聞いただけでおおよその形を描くことができます。 ・鉛筆や色鉛筆など身近な画材の使用法を身につける。 ・ドライバー、ペンチ、鋸など基本の道具の使い方を覚える。 ・モノづくりをすることで中途半端な仕事や作業をせず良い仕上がりに向けて動くことができる | | | | | | |
| 評価方法と基準 | 1)出席率40% 2)作品提出40% 3)作品評価20% ※出席率100パーセント及びすべての作品を期限までに提出したものは作品評価が低い場合でもA評価とする。 | | | | | | |

| 授業計画・内容 | | | | |
|------------------|----|------|--------------------|------------------|
| 回数 | 日程 | 授業形態 | 学習内容 | 準備学習 時間外学習(学習課題) |
| 1 | | 講義 | 授業の流れとモノ作りについて理解する | 自己紹介イラスト制作 |
| 2 | | 演習 | 動物イラスト制作が作れる | 描く動物の生態学習 |
| 3 | | 演習 | 動物イラスト制作が作れる | |
| 4 | | 演習 | アニマルメモキャッチャー制作が作れる | 対象の生き物の形の捉え方 |
| 5 | | 演習 | アニマルメモキャッチャー制作が作れる | |
| 6 | | 演習 | 小石の動物が作れる | 自然の石の形を利用する |
| 7 | | 演習 | 小石の動物が作れる | |
| 8 | | 演習 | 小石の動物が作れる | |
| 9 | | 演習 | フェルトの動物が作れる | 生き物の特徴と生態 |
| 10 | | 演習 | フェルトの動物が作れる | |
| 11 | | 演習 | フェルトの動物が作れる | |
| 12 | | 演習 | フェルトの動物が作れる | |
| 13 | | 演習 | 解説版のデザインができる | 架空の動物施設を設立 |
| 14 | | 演習 | 解説版のデザインができる | 架空の動物施設を設立 |
| 15 | | 演習 | 解説版のデザインができる | 架空の動物施設を設立 |
| 準備学習 | | | | |
| 【使用教科書・教材・参考書】 □ | | | | |

| | | | | | | | |
|------------|--|----------|-------------------------|-------------|-----------|------|--------------|
| 科目名 (英) | クラフトワーク (craft work) | 必修 選択 | 必修 選択必修 ・選択等 | 年次 | 1 | 担当教員 | 渡辺 尋志 |
| | | 授業 形態 | 講義 ・演習 実習等 | 総時間 (単位) | 60 (4) | 開講区分 | 後期 木曜日 3限 |
| 学科・コース | 動物・ペット学科昼間Ⅰ部 | | | | | | |
| 教員の略歴 | 1990年より彫刻家として独立、日本美術家連盟会員、新制作協会会員、 | | | | | | |
| 授業の学習内容 | 生き物に関わる人間にとって大切なことは観察することそして考えること。何かを形にするためには対象物を観察し何故この形になったのかを考えることで辻褃の合ったものが出来上がります。絵を描き、粘土や針金で形を作り出す時自分自身の制作物を客観的にとらえ間違いや過不足箇所を的確に訂正できる勇気を養ってほしい。興味があるものだけでなくすべての事柄に対して考えることの重要性を理解して欲しい。また、そこに付随して生態や現在の問題点、それに対しての自分なりの解決策まで考察できる力が付くことを目指したい。 | | | | | | |
| 到達目標 | <ul style="list-style-type: none"> ・生き物の名称を聞いただけでおおよその形を描くことができます。 ・鉛筆や色鉛筆など身近な画材の使用法を身につける。 ・ドライバー、ペンチ、鋸など基本の道具の使い方を覚える。 ・モノづくりをすることで中途半端な仕事や作業をせず良い仕上がりに向けて動くことができる | | | | | | |
| 評価方法と基準 | 1)出席率40% 2)作品提出40% 3)作品評価20% ※出席率100パーセント及びすべての作品を期限までに提出したものは作品評価が低い場合でもA評価とする。 | | | | | | |

| 授業計画・内容 | | | | |
|---|----|------|------------|------------------|
| 回数 | 日程 | 授業形態 | 学習内容 | 準備学習 時間外学習(学習課題) |
| 1 | | 演習 | 解説版の制作ができる | 架空の動物施設を設立 |
| 2 | | 演習 | 解説版の制作ができる | 架空の動物施設を設立 |
| 3 | | 演習 | 解説版の制作ができる | 架空の動物施設を設立 |
| 4 | | 演習 | 解説版の制作ができる | 架空の動物施設を設立 |
| 5 | | 演習 | 解説版の制作ができる | 架空の動物施設を設立 |
| 6 | | 演習 | 解説版の制作ができる | 架空の動物施設を設立 |
| 7 | | 演習 | 解説版の制作ができる | 架空の動物施設を設立 |
| 8 | | 演習 | 解説版の制作ができる | 架空の動物施設を設立 |
| 9 | | 演習 | 解説版の制作ができる | 架空の動物施設を設立 |
| 10 | | 演習 | 解説版の制作ができる | 架空の動物施設を設立 |
| 11 | | 演習 | 解説版の制作ができる | 架空の動物施設を設立 |
| 12 | | 演習 | 解説版の制作ができる | 架空の動物施設を設立 |
| 13 | | 演習 | 解説版の制作ができる | 架空の動物施設を設立 |
| 14 | | 演習 | 解説版の制作ができる | 架空の動物施設を設立 |
| 15 | | 演習 | 解説版の制作ができる | 架空の動物施設を設立 |
| 準備学習 | | | | |
| 【使用教科書・教材・参考書】 <input type="checkbox"/> | | | | |

| | | | | | | | |
|-------------|---|----------|-----------------|-------------|-----------|------|------------------|
| 科目名 (英) | ビジネスマナー (Seminar for job Hunting) | 必修 選択 | 必修・選択必 修・選択等 | 年次 | 1 | 担当教員 | 岩田 |
| 学科・コース | 動物・ペット学科昼間 I 部 | 授業 形態 | 講義・演習・実 習等 | 総時間 (単位) | 30 (2) | 開講区分 | 前期・後期・通 年・集中等 |
| 教員の略歴 | 動物系専門学校卒業後、専門学校勤務を経て平成19年より教務課長を歴任し現在はキャリアセンター課長 | | | | | | |
| 授業の学習内 容 | ①就職活動をおこなっていくうえで必要にスキルを身に付けると同時に、求められる人材像を認識し近づける。 また、評価をいただき結果を出すための準備として実施するものであります。 ②各学科で実施している動物飼育実習とインターンシップの関連性を意識させ専門技術の向上を図る。履歴書 また、後輩である1年生は先輩である2年生からの指導や対応を受けることで、将来の職場における立ち居振る舞いを身に付け る。就職活動に必要なツールを高いレベルで利用ができるようにする。 ③目指す職業(仕事)の理解を深める。また、求められる人材像を理解し、自身の変化や成長させる。そのうえで就職活動に必 要なスキルをマスターする。 | | | | | | |
| 到達目標 | <ul style="list-style-type: none"> ・仕事をしていく上で必要な気構え・身構え・心構えを持てるようにする。(動物飼育や学生生活全般に関連) ・仕事をしていく理由と専門職の必要性をより深める。(各学科の実習における知識・技術の習得及び、向上) ・就職活動に必要なスキルの習得。・企業に対する自信の存在が最大限アピールできるようにする。(履歴書、封筒宛名、添え状、お礼状等、サクセスノートと連動し身に付ける) ・インターンシップ希望施設の絞り込みをする。 | | | | | | |
| 評価方法と基準 | 1)出席率(66.7%) 2)提出物(100%) 3)筆記試験(60%) 対企業への提出の為に練習書類の準備期間(1週間以内作成を可能にする) | | | | | | |

| 授業計画・内容 | | | | |
|------------------|----|------|--------------------------------------|------------------|
| 回数 | 日程 | 授業形態 | 学習内容 | 準備学習 時間外学習(学習課題) |
| 1 | / | 講義 | 希望進路について記することができる | 就職希望アンケート |
| 2 | / | 講義 | 求められる人材について自己評価ができる | |
| 3 | / | 講義 | 専門職について理解できる | |
| 4 | / | 講義 | 就職活動の内容や重要性が理解できる | ワークシート(就活計画) |
| 5 | / | 講義 | 履歴書の書き方①(履歴書が書ける) | 練習用履歴書の下書き提出 |
| 6 | / | 講義 | 履歴書の書き方②(志望動機・自己PR他文章で表現できる) | 練習用履歴書の下書き提出 |
| 7 | / | 講義 | 履歴書の書き方③(下書きが仕上げられる) | 練習用履歴書の下書き提出 |
| 8 | / | 講義 | 封筒の書き方①(宛名の書き方が理解できる) | 封筒宛名課題 |
| 9 | / | 講義 | 封筒の書き方②(縦書き、横書きが書ける) | 封筒宛名課題 |
| 10 | / | 講義 | 手紙の書き方①(添え状の意味を理解し書ける) | 添え状課題 |
| 11 | / | 講義 | 手紙の書き方②(お礼状の意味を理解し書ける) | お礼状課題 |
| 12 | / | 講義 | 電話のかけ方(企業へ電話をかけ目的を達成できる) | |
| 13 | / | 講義 | インターンシップの実際(インターンシップの目的、実際、効果が理解できる) | |
| 14 | / | 講義 | 就職出陣式(就職活動に向けての意を高める) | プレゼン準備 |
| 15 | / | 講義 | インターンシップガイダンス(重要項目が理解できる) | プレゼン準備 |
| 16 | / | | 個別対応 | ワークシート |
| 準備学習 時間外学習 | | | | |
| 【使用教科書・教材・参考書】 □ | | | | |
| ・サクセスノート | | | | |

| | | | | | | | |
|------------|--|----------|-------------|-------------|-------------|------|----------------------------|
| 科目名 (英) | 飼育飼養管理 () | 必修 選択 | 必修・選択必修・選択等 | 年次 | 2 | 担当教員 | 長嶺 幸介 |
| 学科・コース | 動物・ペット学科昼間Ⅰ部 | 授業 形態 | 講義・演習・実習等 | 総時間 (単位) | 180 (12) | 開講区分 | 前期 土曜日 1・2・3 曜日・時限 限 |
| 教員の略歴 | 1989年～1992年競走馬生産牧場、1992年～1996年乗馬クラブ、1996年～2000年ペットショップ、移動動物園勤務 | | | | | | |
| 授業の学習内容 | 動物の飼育管理に関する技術や知識を理解し、基本的な管理と取り扱いについて学ぶ | | | | | | |
| 到達目標 | 動物の基本的な飼育管理ができる 適切な取り扱いができる | | | | | | |
| 評価方法と基準 | 定期試験:80% 授業態度と参加度:20% | | | | | | |

| 授業計画・内容 | | | | |
|---|----|------|-----------------------------------|-------------------|
| 回数 | 日程 | 授業形態 | 学習内容 | 準備学習 時間外学習(学習課題) |
| 1 | / | 講義 | 行動観察の方法と記録を理解する | 講義範囲を予習・復習する。 |
| 2 | / | 講義 | 行動観察に必要な準備ができる | 講義範囲を予習・復習する。 |
| 3 | / | 講義 | 予備観察を理解する | 講義範囲を予習・復習する。 |
| 4 | / | 講義 | 経時記録を行うことができる | 講義範囲を予習・復習する。 |
| 5 | / | 講義 | 目的によるサンプリングができる | 講義範囲を予習・復習する。 |
| 6 | / | 講義 | 観察データをまとめることができる | 講義範囲を予習・復習する。 |
| 7 | / | 講義 | 野草の利用を理解する | 講義範囲を予習・復習する。 |
| 8 | / | 講義 | 野草の採取と同定ができる | 講義範囲を予習・復習する。 |
| 9 | / | 講義 | 野草の採取と同定ができる | 講義範囲を予習・復習する。 |
| 10 | / | 講義 | 動物の野草採食について考察できる | 講義範囲を予習・復習する。 |
| 11 | / | 講義 | 動物の保定について理解できる | 講義範囲を予習・復習する。 |
| 12 | / | 講義 | 動物の保定について理解できる | 講義範囲を予習・復習する。 |
| 13 | / | 講義 | 保定の実施と技術について理解できる | 講義範囲を予習・復習する。 |
| 14 | / | 試験 | 試験 | 試験範囲を勉強し、試験後、見直す。 |
| 15 | / | 講義 | 振り返り | 試験範囲を振り返り、理解を深める。 |
| 準備学習 時間外学習 | | | 学校の図書やインターネットを利用して講義の範囲内を予習・復習する。 | |
| 【使用教科書・教材・参考書】 <input type="checkbox"/> | | | | |

| | | | | | | | |
|------------|--|----------|-------------|-------------|-------------|------|----------------------------|
| 科目名 (英) | 飼育飼養管理 () | 必修 選択 | 必修・選択必修・選択等 | 年次 | 2 | 担当教員 | 嶋田 千晃 |
| 学科・コース | 動物・ペット学科昼間 I 部 | 授業 形態 | 講義・演習・実習等 | 総時間 (単位) | 180 (12) | 開講区分 | 後期 土曜日 1・2・3 曜日・時限 限 |
| 教員の略歴 | 1989年～1992年競走馬生産牧場、1992年～1996年乗馬クラブ、1996年～2000年ペットショップ、移動動物園勤務 | | | | | | |
| 授業の学習内容 | 日本における野生動物の保護や現状、展示物作製や人に伝える方法などを学ぶ | | | | | | |
| 到達目標 | この科目を受講した学生が仕事に携わる時に、野生動物の知識を持って行動できることを目標とする | | | | | | |
| 評価方法と基準 | 定期試験:80% 授業態度と参加度:20% | | | | | | |

| 授業計画・内容 | | | | |
|---|----|------|-----------------------------------|-------------------|
| 回数 | 日程 | 授業形態 | 学習内容 | 準備学習 時間外学習(学習課題) |
| 1 | / | 講義 | 消毒薬の希釈溶液を理解する | 講義範囲を予習・復習する。 |
| 2 | / | 講義 | 飼育動物の牧草採集ができる | 講義範囲を予習・復習する。 |
| 3 | / | 講義 | 飼育室展示物採集ができる | 講義範囲を予習・復習する。 |
| 4 | / | 講義 | 外来生物調査を理解できる① | 講義範囲を予習・復習する。 |
| 5 | / | 講義 | 外来生物調査を理解できる② | 講義範囲を予習・復習する。 |
| 6 | / | 講義 | ラムサール条約の意義目的を理解できる | 講義範囲を予習・復習する。 |
| 7 | / | 講義 | ベルグマンとアレンの法則について理解できる | 講義範囲を予習・復習する。 |
| 8 | / | 講義 | 野生動物の定義が理解できる | 講義範囲を予習・復習する。 |
| 9 | / | 講義 | 日本の野生動物を理解できる | 講義範囲を予習・復習する。 |
| 10 | / | 講義 | 野生動物の現状を理解できる | 講義範囲を予習・復習する。 |
| 11 | / | 講義 | 野生動物と環境保全を理解できる | 講義範囲を予習・復習する。 |
| 12 | / | 講義 | 野生動物の保全に関する法律を理解できる | 講義範囲を予習・復習する。 |
| 13 | / | 講義 | 骨格標本作製の基礎を理解できる | 講義範囲を予習・復習する。 |
| 14 | / | 試験 | 試験 | 試験範囲を勉強し、試験後、見直す。 |
| 15 | / | 講義 | 振り返り | 試験範囲を振り返り、理解を深める。 |
| 準備学習 時間外学習 | | | 学校の図書やインターネットを利用して講義の範囲内を予習・復習する。 | |
| 【使用教科書・教材・参考書】 <input type="checkbox"/> | | | | |

| | | | | | | | |
|-------------|---|----------|-----------------|-------------|-------------|------|--------------|
| 科目名 (英) | ショップ演習 (Shop Exercise) | 必修 選択 | 必修・選択 必修・選択等 | 年次 | 2 | 担当教員 | 長嶺 幸介 |
| 学科・コース | 動物・ペット学科昼間Ⅰ部 | 授業 形態 | 講義・演習・実 習等 | 総時間 (単位) | 60 (4) | 開講区分 | 前期 水曜日 1限 |
| 教員の略歴 | 1989年～1992年競走馬生産牧場、1992年～1996年乗馬クラブ、1996年～2000年ペットショップ、移動動物園勤務 | | | | | | |
| 授業の学習内 容 | <p>業界への従事を目指す学生を対象とした、業界で働くための幅広い知識を修得する授業。業界は、必ず生き物に触れ合う仕事であるため、本授業では知識を増やす“講義”と、即戦力となるための経験値を高める“実習”のバランスを重視したカリキュラム構成となっている。生体管理の知識などは「科目：飼養管理」と関連する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・問屋業の仕事を学ぶ ・学生は本授業で得た動物に関する幅広い知識と経験を基に、ショップスタッフや問屋へ就職後も即戦力として活躍できる人材に育ってくれることを望む。 | | | | | | |
| 到達目標 | <ul style="list-style-type: none"> ・実際に従事する職場での即戦力となるため、業界に対する基本知識を学ぶ。 ・業界において、問屋業の幅広い基礎知識と技術を習得する。 ・小売業の一部の基礎知識と技術を習得する。 ・小売店での生体管理方法を身につける。 ・餌の種類、成分、用途などの知識を学んだ後に、オリジナルの飼料を作製することで、より深い知識を身につける。 | | | | | | |
| 評価方法と基準 | 定期試験：80% 授業態度と参加度：20% | | | | | | |

| 授業計画・内容 | | | | |
|------------------|----|------|--------------------------------|------------------|
| 回数 | 日程 | 授業形態 | 学習内容 | 準備学習 時間外学習(学習課題) |
| 1 | / | 演習 | 業界の仕組みを説明できる | 授業範囲を予習・復習する。 |
| 2 | / | 演習 | 問屋の役割、存在意義を説明できる | 授業範囲を予習・復習する。 |
| 3 | / | 演習 | 問屋の業務を説明できる | 授業範囲を予習・復習する。 |
| 4 | / | 演習 | 問屋の生体管理の実践できる | 授業範囲を予習・復習する。 |
| 5 | / | 演習 | 生体管理方法を説明できる | 授業範囲を予習・復習する。 |
| 6 | / | 演習 | 飼育室の生体管理方法を実践できる | 授業範囲を予習・復習する。 |
| 7 | / | 演習 | 飼料の栄養素を説明できる | 授業範囲を予習・復習する。 |
| 8 | / | 演習 | 色揚げメカニズムを説明できる | 授業範囲を予習・復習する。 |
| 9 | / | 演習 | 餌の原材料の特徴を説明できる | 授業範囲を予習・復習する。 |
| 10 | / | 演習 | 餌を調合して製造することが出来る | 授業範囲を予習・復習する。 |
| 11 | / | 演習 | 輸入の仕組みを説明できる | 授業範囲を予習・復習する。 |
| 12 | / | 演習 | 輸入の法律に関して説明できる | 授業範囲を予習・復習する。 |
| 13 | / | 演習 | 前期で行ったことを説明できる | 授業範囲を予習・復習する。 |
| 14 | / | 試験 | 筆記テスト実施 | 試験範囲を予習・復習する。 |
| 15 | / | 演習 | テスト結果の振り返りを行うことでこの授業の理解をさらに深める | 授業範囲を予習・復習する。 |
| 準備学習 時間外学習 | | | 予習はインターネットや飼育書を参考にする。 | |
| 【使用教科書・教材・参考書】 □ | | | | |
| 必要に応じて随時参考資料等を使用 | | | | |

| | | | | | | | |
|------------|---|----------|-------------|-------------|-------------|------|--------------|
| 科目名 (英) | ショップ演習 (Shop Exercise) | 必修 選択 | 必修・選択必修・選択等 | 年次 | 2 | 担当教員 | 長嶺 幸介 |
| 学科・コース | 動物・ペット学科昼間Ⅰ部 | 授業 形態 | 講義・演習・実習等 | 総時間 (単位) | 60 (4) | 開講区分 | 後期 水曜日 1限 |
| 教員の略歴 | 1989年～1992年競走馬生産牧場、1992年～1996年乗馬クラブ、1996年～2000年ペットショップ、移動動物園勤務 | | | | | | |
| 授業の学習内容 | <p>業界への従事を目指す学生を対象とした、業界で働くための幅広い知識を修得する授業。業界は、必ず生き物に触れ合う仕事であるため、本授業では知識を増やす“講義”と、即戦力となるための経験値を高める“実習”のバランスを重視したカリキュラム構成となっている。生体管理の知識などは「科目：飼養管理」と関連する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・問屋業の仕事を学ぶ ・学生は本授業で得た動物に関する幅広い知識と経験を基に、ショップスタッフや問屋へ就職後も即戦力として活躍できる人材に育ってくれることを望む。 | | | | | | |
| 到達目標 | <ul style="list-style-type: none"> ・実際に従事する職場での即戦力となるため、業界に対する基本知識を学ぶ。 ・業界において、問屋業の幅広い基礎知識と技術を習得する。 ・小売業の一部の基礎知識と技術を習得する。 ・小売店での生体管理方法を身につける。 ・餌の種類、成分、用途などの知識を学んだ後に、オリジナルの飼料を作製することで、より深い知識を身につける。 | | | | | | |
| 評価方法と基準 | 定期試験：80% 授業態度と参加度：20% | | | | | | |

| 授業計画・内容 | | | | |
|------------------|----|--|--------------------------------|------------------|
| 回数 | 日程 | 授業形態 | 学習内容 | 準備学習 時間外学習(学習課題) |
| 1 | / | 演習 | 利益率の計算ができる | 授業範囲を予習・復習する。 |
| 2 | / | 演習 | 繁殖について説明できる | 授業範囲を予習・復習する。 |
| 3 | / | 演習 | 動物の海外歴史を説明できる | 授業範囲を予習・復習する。 |
| 4 | / | 演習 | 動物の国内歴史を説明できる | 授業範囲を予習・復習する。 |
| 5 | / | 演習 | 病気の症状と対処方を説明できる | 授業範囲を予習・復習する。 |
| 6 | / | 演習 | オーストラリアの動物事情を説明できる | 授業範囲を予習・復習する。 |
| 7 | / | 演習 | 什器のしくみを説明できる | 授業範囲を予習・復習する。 |
| 8 | / | 演習 | 塩ビ配管の接続を実践できる | 授業範囲を予習・復習する。 |
| 9 | / | 演習 | 用品メーカーを説明できる | 授業範囲を予習・復習する。 |
| 10 | / | 演習 | 用品メーカーを説明できる | 授業範囲を予習・復習する。 |
| 11 | / | 演習 | 問屋の業務を説明できる | 授業範囲を予習・復習する。 |
| 12 | / | 演習 | 問屋の生体管理の実践できる | 授業範囲を予習・復習する。 |
| 13 | / | 演習 | 後期で行ったことを説明できる | 授業範囲を予習・復習する。 |
| 14 | / | 試験 | 筆記テスト実施 | 試験範囲を予習・復習する。 |
| 15 | / | 演習 | テスト結果の振り返りを行うことでこの講義の理解をさらに深める | 授業範囲を予習・復習する。 |
| 準備学習 時間外学習 | | 事後学習を通じてより深く学び、事前学習を行うことで授業内での学びの展開を促す | | |
| 【使用教科書・教材・参考書】 □ | | | | |
| 必要に応じて随時参考資料等を使用 | | | | |

| | | | | | | | |
|------------|--|----------|---------------|-------------|------------|------|----------------|
| 科目名 (英) | 動物看護 (Animal Nursing) | 必修 選択 | 必修 選択 必修 選択 等 | 年次 | 2 | 担当教員 | 鈴木 莉紗 |
| 学科・コース | 動物・ペット学科昼間 I 部 | 授業 形態 | 講義・演習 実習等 | 総時間 (単位) | 120 (8) | 開講区分 | 前期 木曜日 1・2限 |
| 教員の略歴 | 動物系専門学校卒業後、2009年～動物病院に動物看護師として勤務現在に至る | | | | | | |
| 授業の学習内容 | 犬猫を中心に健康管理や予防法、主にみられる疾患について学ぶ。 各検査に必要な手技や機器の扱い方などを学ぶ。 | | | | | | |
| 到達目標 | 犬猫の健康管理や予防法、主な疾患の症状、検査法、治療法を理解する。 各検査の目的や意義を理解し、正確に検査を行うことができる。 | | | | | | |
| 評価方法と基準 | 定期試験 80% 出席率 20% | | | | | | |

| 授業計画・内容 | | | | |
|--------------------------------------|----|-------|------------------------|------------------|
| 回数 | 日程 | 授業形態 | 学習内容 | 準備学習 時間外学習(学習課題) |
| 1 | / | 講義・実習 | 犬猫の健康管理について理解できる | |
| 2 | / | 講義・実習 | 狂犬病について理解できる | |
| 3 | / | 講義・実習 | ワクチネーションプログラムについて理解できる | |
| 4 | / | 講義・実習 | フィラリアについて理解できる | 糞便検査の方法について理解できる |
| 5 | / | 講義・実習 | 内部寄生虫について理解できる | 糞便検査の方法について理解できる |
| 6 | / | 講義・実習 | 内部寄生虫について理解できる | 糞便検査の方法について理解できる |
| 7 | / | 講義・実習 | 下痢について理解できる | 糞便検査の方法について理解できる |
| 8 | / | 講義・実習 | 嘔吐と吐出について理解できる | 糞便検査の方法について理解できる |
| 9 | / | 講義・実習 | 泌尿器系の疾患について理解できる | 尿検査の方法について理解できる |
| 10 | / | 講義・実習 | 泌尿器系の疾患について理解できる | 尿検査の方法について理解できる |
| 11 | / | 講義・実習 | 熱中症について理解できる | 尿検査の方法について理解できる |
| 12 | / | 講義・実習 | 外部寄生虫について理解できる | 尿検査の方法について理解できる |
| 13 | / | 講義・実習 | 歯周病について理解できる | 尿検査の方法について理解できる |
| 14 | / | | 試験 | |
| 15 | / | | 振り返り | |
| 準備学習 時間外学習 | | | | |
| 【使用教科書・教材・参考書】 □ コンパニオンアニマルの看護技術学 | | | | |

| | | | | | | | |
|------------|--|----------|------------------|-------------|------------|------|----------------|
| 科目名 (英) | 動物看護 (Animal Nursing) | 必修 選択 | 必修(選択必修・選 択等) | 年次 | 2 | 担当教員 | 鈴木 莉紗 |
| 学科・コース | 動物・ペット学科昼間 I 部 | 授業 形態 | 講義・演習(実習等) | 総時間 (単位) | 120 (8) | 開講区分 | 後期 木曜日 1・2限 |
| 教員の略歴 | 動物系専門学校卒業後、2009年～動物病院に動物看護師として勤務現在に至る | | | | | | |
| 授業の学習内容 | 検体検査および生体検査に必要な手技や機器の扱い方など、学んだ知識の実践力を習得する。 | | | | | | |
| 到達目標 | 各検査の目的や意義を理解し、正確に検査を行うことができる。 | | | | | | |
| 評価方法と基準 | 定期試験 80% 出席率 20% | | | | | | |

| 授業計画・内容 | | | | |
|-------------------------|----|------|--------------------------|-------------------|
| 回数 | 日程 | 授業形態 | 学習内容 | 準備学習 時間外学習(学習課題) |
| 1 | / | 演習 | 全身チェック、バイタルチェックを行うことができる | 授業範囲の予習と復習 |
| 2 | / | 演習 | 全身チェック、バイタルチェックを行うことができる | 授業範囲の予習と復習 |
| 3 | / | 演習 | 全身チェック、バイタルチェックを行うことができる | 授業範囲の予習と復習 |
| 4 | / | 演習 | 糞便検査を行うことができる | 授業範囲の予習と復習 |
| 5 | / | 演習 | 糞便検査を行うことができる | 授業範囲の予習と復習 |
| 6 | / | 演習 | 糞便検査を行うことができる | 授業範囲の予習と復習 |
| 7 | / | 演習 | 糞便検査を行うことができる | 授業範囲の予習と復習 |
| 8 | / | 演習 | 糞便検査を行うことができる | 授業範囲の予習と復習 |
| 9 | / | 演習 | 尿検査を行うことができる | 授業範囲の予習と復習 |
| 10 | / | 演習 | 尿検査を行うことができる | 授業範囲の予習と復習 |
| 11 | / | 演習 | 尿検査を行うことができる | 授業範囲の予習と復習 |
| 12 | / | 演習 | 尿検査を行うことができる | 授業範囲の予習と復習 |
| 13 | / | 演習 | 尿検査を行うことができる | 授業範囲の予習と復習 |
| 14 | / | 試験 | 試験 | 今までの演習内容を行う |
| 15 | / | 演習 | 振り返り | 試験範囲を振り返り、理解を深める。 |
| 準備学習 時間外学習 | | | | |
| 【使用教科書・教材・参考書】 □ | | | | |
| 動物看護コアテキスト 動物看護の実践 第2版6 | | | | |

| | | | | | | | |
|------------|--|----------|-------------|-------------|-----------|------|-----------------------|
| 科目名 (英) | アニマルヘルスケア (Animal Herthcare) | 必修 選択 | 必修・選択必修・選択等 | 年次 | 2 | 担当教員 | 宮崎 みどり |
| 学科・コース | 動物・ペット学科昼間 I 部 | 授業 形態 | 講義・演習・実習等 | 総時間 (単位) | 60 (4) | 開講区分 | 前期 曜日・時限 火曜日 2限 |
| 教員の略歴 | 動物系専門学校卒業、動物ショーの会社に勤務(アニマルトレーナー、イベント企画)後動物系専門学校非常勤講師 | | | | | | |
| 授業の学習内容 | 犬猫の栄養学を学びながら、同時に身体の仕組みまで包括的に理解することで実践で活かすための知識と技術を学びます。栄養学の知識を適切に学び、犬猫に適切で安全な食事を提供することができるプロになれるよう、学習してください。 | | | | | | |
| 到達目標 | 犬猫に必要な栄養素について適切に理解し、カフェメニューを作ることができる 五大栄養素について理解し、犬猫に必要な栄養素を相手に適切に説明することができる 人間の身体の仕組みと、犬猫の身体の仕組みの違いをしっかりと理解することができる 食事は生物の身体を作る基本であると同時に喜びや楽しみであることを伝えることができるようになる | | | | | | |
| 評価方法と基準 | 定期試験:80% 授業態度と参加度:20% | | | | | | |

| 授業計画・内容 | | | | | |
|---|----|------|-----------------------------------|------|-------------------|
| 回数 | 日程 | 授業形態 | 学習内容 | 準備学習 | 時間外学習(学習課題) |
| 1 | / | 講義 | 食について考える | | 講義範囲を予習・復習する。 |
| 2 | / | 講義 | たんぱく質を説明できる | | 講義範囲を予習・復習する。 |
| 3 | / | 講義 | 脂質を説明できる | | 講義範囲を予習・復習する。 |
| 4 | / | 講義 | 炭水化物を説明できる | | 講義範囲を予習・復習する。 |
| 5 | / | 講義 | ビタミンを説明できる | | 講義範囲を予習・復習する。 |
| 6 | / | 講義 | ミネラルを説明できる | | 講義範囲を予習・復習する。 |
| 7 | / | 講義 | 水について理解する | | 講義範囲を予習・復習する。 |
| 8 | / | 講義 | 消化を説明できる | | 講義範囲を予習・復習する。 |
| 9 | / | 講義 | 吸収を説明できる | | 講義範囲を予習・復習する。 |
| 10 | / | 講義 | 他各臓器を説明できる | | 講義範囲を予習・復習する。 |
| 11 | / | 講義 | 食のあり方を理解できる① | | 講義範囲を予習・復習する。 |
| 12 | / | 講義 | 食のあり方を理解できる② | | 講義範囲を予習・復習する。 |
| 13 | / | 講義 | 免疫について理解できる | | 講義範囲を予習・復習する。 |
| 14 | / | 試験 | 試験 | | 試験範囲を勉強し、試験後、見直す。 |
| 15 | / | 講義 | 振り返り | | 試験範囲を振り返り、理解を深める。 |
| 準備学習 時間外学習 | | | 学校の図書やインターネットを利用して講義の範囲内を予習・復習する。 | | |
| 【使用教科書・教材・参考書】 <input type="checkbox"/> | | | | | |

| | | | | | | | |
|------------|--|----------|-------------|-------------|-----------|------|-----------------------|
| 科目名 (英) | アニマルヘルスケア (Animal Herthcare) | 必修 選択 | 必修・選択必修・選択等 | 年次 | 2 | 担当教員 | 宮崎 みどり |
| 学科・コース | 動物・ペット学科昼間 I 部 | 授業 形態 | 講義・演習・実習等 | 総時間 (単位) | 60 (4) | 開講区分 | 後期 曜日・時限 火曜日 2限 |
| 教員の略歴 | 動物系専門学校卒業、動物ショーの会社に勤務(アニマルトレーナー、イベント企画)後動物系専門学校非常勤講師 | | | | | | |
| 授業の学習内容 | ナチュラルケアで学んだ知識や実践力を使いペットのナチュラルケアグッズの製品化を実践し販売するまでのプロセスを学びます。この授業では具体的な製品づくりのほかに社会に出て必要とされる業界知識や基本的なビジネス知識を身につけどのような消費者に向けてものづくりをしどのような流れで流通させるかをチームで考え実践していきます。 | | | | | | |
| 到達目標 | 自分たちでコンセプトを作り上げマーケティングターゲットに合わせた製品化作りをします。ペットの飼い主が何を求めているのか、様々な角度からのそのニーズを考え行動に移せる人材を育成します。 | | | | | | |
| 評価方法と基準 | 定期試験:80% 授業態度と参加度:20% | | | | | | |

| 授業計画・内容 | | | | |
|------------------|----|------|-----------------------------------|-------------------|
| 回数 | 日程 | 授業形態 | 学習内容 | 準備学習 時間外学習(学習課題) |
| 1 | / | 講義 | ガイダンス | 講義範囲を予習・復習する。 |
| 2 | / | 講義 | 蒸留法を理解できる | 講義範囲を予習・復習する。 |
| 3 | / | 講義 | ストレスを理解できる | 講義範囲を予習・復習する。 |
| 4 | / | 講義 | 精油の取り込み方を理解できる | 講義範囲を予習・復習する。 |
| 5 | / | 講義 | 扱い方を理解できる | 講義範囲を予習・復習する。 |
| 6 | / | 講義 | 精油プロフィールを理解できる① | 講義範囲を予習・復習する。 |
| 7 | / | 講義 | 精油プロフィールを理解できる② | 講義範囲を予習・復習する。 |
| 8 | / | 講義 | 精油プロフィールを理解できる③ | 講義範囲を予習・復習する。 |
| 9 | / | 講義 | 精油プロフィールを理解できる④ | 講義範囲を予習・復習する。 |
| 10 | / | 講義 | 歴史を理解できる | 講義範囲を予習・復習する。 |
| 11 | / | 講義 | 応用ができる | 講義範囲を予習・復習する。 |
| 12 | / | 講義 | 注意点を理解できる | 講義範囲を予習・復習する。 |
| 13 | / | 講義 | ミスト作りができる | 講義範囲を予習・復習する。 |
| 14 | / | 試験 | 試験 | 試験範囲を勉強し、試験後、見直す。 |
| 15 | / | 講義 | 振り返り | 試験範囲を振り返り、理解を深める。 |
| 準備学習 時間外学習 | | | 学校の図書やインターネットを利用して講義の範囲内を予習・復習する。 | |
| 【使用教科書・教材・参考書】 □ | | | | |

| | | | | | | | |
|------------|--|----------|-----------------|-------------|-------------|------|----------------|
| 科目名 (英) | ドッグトレーニング (Dog Training) | 必修 選択 | 必修・選択必 修・選択等 | 年次 | 2 | 担当教員 | 三田 舞 |
| 学科・コース | 動物・ペット学科昼間 I 部 | 授業 形態 | 講義・演習・実 習等 | 総時間 (単位) | 240 (16) | 開講区分 | 前期 水曜日 2・3限 |
| 教員の略歴 | JKC公認訓練士、1999年～2003年警察犬大場訓練所勤務、動物系専門学校にてドッグトレーニングの非常勤講師を務める | | | | | | |
| 授業の学習内容 | 犬のトレーニングに必要な基礎知識を理解するための講義と、実際に犬を使った演習を行うことによりより深くトレーニングを理解する授業です。 自分自身がしっかりとトレーニングを理解する事により、犬が理解しやすいトレーニングを習得します。 ※ 実際に犬を使ったトレーニングを行う授業のため、内容に変更のある場合があります。 | | | | | | |
| 到達目標 | 犬の本能を利用したトレーニング方法を使い、基本動作を犬に教えることが出来る。 後期及び、進級後に備えアマチュアにトレーニング方法を理解しやすく説明出来る様になる。 | | | | | | |
| 評価方法と基準 | <ul style="list-style-type: none"> 定期試験(筆記試験) 60% 講義・演習中の態度及び、トレーニング成果 40% | | | | | | |

| 授業計画・内容 | | | | |
|--|----|-----------------------------------|--------------------------|------------------|
| 回数 | 日程 | 授業形態 | 学習内容 | 準備学習 時間外学習(学習課題) |
| 1 | | 講義・演習 | 各家庭犬に合ったトレーニングができる | 担当犬の管理 |
| 2 | | 講義・演習 | 各家庭犬に合ったトレーニングができる | 担当犬の管理 |
| 3 | | 講義・演習 | 各家庭犬に合ったトレーニングができる | 担当犬の管理 |
| 4 | | 講義・演習 | 各家庭犬に合ったトレーニングができる | 担当犬の管理 |
| 5 | | 講義・演習 | 各家庭犬に合ったトレーニングができる | 担当犬の管理 |
| 6 | | 講義・演習 | 各家庭犬に合ったトレーニングができる | 担当犬の管理 |
| 7 | | 講義・演習 | 各家庭犬に合ったトレーニングができる | 担当犬の管理 |
| 8 | | 講義・演習 | 各家庭犬に合ったトレーニングができる | 担当犬の管理 |
| 9 | | 講義・演習 | 各家庭犬に合ったトレーニングができる | 担当犬の管理 |
| 10 | | 講義・演習 | 各家庭犬に合ったトレーニングができる | 担当犬の管理 |
| 11 | | 講義・演習 | 各家庭犬に合ったトレーニングができる | 担当犬の管理 |
| 12 | | 講義・演習 | 各家庭犬に合ったトレーニングができる | 担当犬の管理 |
| 13 | | 講義・演習 | 各家庭犬に合ったトレーニングができる | 担当犬の管理 |
| 14 | | 試験 | 試験 (筆記試験) | 予習 |
| 15 | | 講義・演習 | 前期の講義と演習を振り返り、総合的な理解を深める | 担当犬の管理 |
| 準備学習 時間外学習 | | 校外研修では授業で学んだことを確認してより深い知識としてください。 | | |
| 【使用教科書・教材・参考書】 □ | | | | |
| 社団法人 日本動物園水族館協会発行 新飼育ハンドブック 水族館編 第1・2・3集 | | | | |

| | | | | | | | |
|------------|--|----------|-------------|-------------|-------------|------|----------------|
| 科目名 (英) | ドッグトレーニング (Dog Training) | 必修 選択 | 必修・選択必修・選択等 | 年次 | 2 | 担当教員 | 三田 舞 |
| 学科・コース | 動物・ペット学科昼間 I 部 | 授業 形態 | 講義・演習・実習等 | 総時間 (単位) | 240 (16) | 開講区分 | 後期 水曜日 2・3限 |
| 教員の略歴 | JKC公認訓練士、1999年～2003年警察犬大場訓練所勤務、動物系専門学校にてドッグトレーニングの非常勤講師を務める | | | | | | |
| 授業の学習内容 | 犬のトレーニングに必要な基礎知識を理解するための講義と、実際に犬を使った演習を行うことによりより深くトレーニングを理解する授業です。 自分自身がしっかりとトレーニングを理解する事により、犬が理解しやすいトレーニングを習得します。 ※ 実際に犬を使ったトレーニングを行う授業のため、内容に変更のある場合があります。 | | | | | | |
| 到達目標 | 犬の本能を利用したトレーニング方法を使い、基本動作を犬に教えることが出来る。 後期及び、進級後に備えアマチュアにトレーニング方法を理解しやすく説明出来る様になる。 | | | | | | |
| 評価方法と基準 | <ul style="list-style-type: none"> 定期試験(筆記試験) 60% 講義・演習中の態度及び、トレーニング成果 40% | | | | | | |

| 授業計画・内容 | | | | |
|--|----|-----------------------------------|--------------------------|------------------|
| 回数 | 日程 | 授業形態 | 学習内容 | 準備学習 時間外学習(学習課題) |
| 1 | | 講義・演習 | 各家庭犬に合ったトレーニングができる | 担当犬の管理 |
| 2 | | 講義・演習 | 各家庭犬に合ったトレーニングができる | 担当犬の管理 |
| 3 | | 講義・演習 | 各家庭犬に合ったトレーニングができる | 担当犬の管理 |
| 4 | | 講義・演習 | 各家庭犬に合ったトレーニングができる | 担当犬の管理 |
| 5 | | 講義・演習 | 各家庭犬に合ったトレーニングができる | 担当犬の管理 |
| 6 | | 講義・演習 | 各家庭犬に合ったトレーニングができる | 担当犬の管理 |
| 7 | | 講義・演習 | 各家庭犬に合ったトレーニングができる | 担当犬の管理 |
| 8 | | 講義・演習 | 各家庭犬に合ったトレーニングができる | 担当犬の管理 |
| 9 | | 講義・演習 | 各家庭犬に合ったトレーニングができる | 担当犬の管理 |
| 10 | | 講義・演習 | 各家庭犬に合ったトレーニングができる | 担当犬の管理 |
| 11 | | 講義・演習 | 各家庭犬に合ったトレーニングができる | 担当犬の管理 |
| 12 | | 講義・演習 | 各家庭犬に合ったトレーニングができる | 担当犬の管理 |
| 13 | | 講義・演習 | 各家庭犬に合ったトレーニングができる | 担当犬の管理 |
| 14 | | 試験 | 試験 (筆記試験) | 予習 |
| 15 | | 講義・演習 | 前期の講義と演習を振り返り、総合的な理解を深める | 担当犬の管理 |
| 準備学習 時間外学習 | | 校外研修では授業で学んだことを確認してより深い知識としてください。 | | |
| 【使用教科書・教材・参考書】 □ | | | | |
| 社団法人 日本動物園水族館協会発行 新飼育ハンドブック 水族館編 第1・2・3集 | | | | |

| | | | | | | | |
|------------|---|----------|-------------|-------------|-------------|------|--------------|
| 科目名 (英) | 救命救急対応 (Emergency Lifesaving) | 必修 選択 | 必修・選択必修・選択等 | 年次 | 2 | 担当教員 | 鈴木 莉紗 |
| 学科・コース | 動物・ペット学科昼間 I 部 | 授業 形態 | 講義・演習・実習等 | 総時間 (単位) | 60 (4) | 開講区分 | 前期 金曜日 2限 |
| 教員の略歴 | 動物系専門学校卒業後、2009年～動物病院に動物看護師として勤務現在に至る | | | | | | |
| 授業の学習内容 | この授業は犬や猫の日常的な健康管理や内科診療の補助に必要な手技(採血法、採尿法、薬剤調整、補液、輸血など)を身につけることが目的です。 | | | | | | |
| 到達目標 | 1)保定からバイタルチェックなど日常検査の仕方を学ぶ 2)血液検査や尿検査で必要な検体の扱い方を学ぶ 3)輸液や輸血の原理と看護の方法を理解する 4)看護で必要となる最低限の薬剤、栄養学を理解する | | | | | | |
| 評価方法と基準 | 動物看護師統一認定試験合格 50% 定期試験:40% 授業態度と参加度:10% | | | | | | |

| 授業計画・内容 | | | | |
|---|----|------|-----------------------------------|-------------------|
| 回数 | 日程 | 授業形態 | 学習内容 | 準備学習 時間外学習(学習課題) |
| 1 | / | 講義 | 適切な保定と日常検査の技術を習得する | 講義範囲を予習・復習する。 |
| 2 | / | 講義 | 適切な保定とBCS・バイタルチェックの技術を習得する | 講義範囲を予習・復習する。 |
| 3 | / | 講義 | シリンジの扱い方を習得する | 講義範囲を予習・復習する。 |
| 4 | / | 講義 | 採血方法を習得する | 講義範囲を予習・復習する。 |
| 5 | / | 講義 | 抗凝固剤と止血方法を理解する | 講義範囲を予習・復習する。 |
| 6 | / | 講義 | 血液検体の処理を習得する | 講義範囲を予習・復習する。 |
| 7 | / | 講義 | 採尿方法を習得する | 講義範囲を予習・復習する。 |
| 8 | / | 講義 | 検体処理の仕方を習得する | 講義範囲を予習・復習する。 |
| 9 | / | 講義 | 採便方法と処理の仕方を習得する | 講義範囲を予習・復習する。 |
| 10 | / | 講義 | 爪切り、耳掃除、肛門囊絞りを習得する | 講義範囲を予習・復習する。 |
| 11 | / | 講義 | 口腔内検査並びに歯ブラシを習得する | 講義範囲を予習・復習する。 |
| 12 | / | 講義 | 生体検査など必要となる保定方法を習得する | 講義範囲を予習・復習する。 |
| 13 | / | 講義 | 1～12週までの授業内容を復習する | 講義範囲を予習・復習する。 |
| 14 | / | 試験 | 筆記試験 | 試験範囲を勉強し、試験後、見直す。 |
| 15 | / | 講義 | 試験問題の解説を通してこれまでの授業を振り返る | 試験範囲を振り返り、理解を深める。 |
| 準備学習 時間外学習 | | | 学校の図書、インターネットを利用して講義の範囲内を予習・復習する。 | |
| 【使用教科書・教材・参考書】 <input type="checkbox"/> | | | | |

| | | | | | | | |
|------------|---|----------|-------------|-------------|-----------|------|--------------|
| 科目名 (英) | 救命救急対応 (Emergency Lifesaving) | 必修 選択 | 必修・選択必修・選択等 | 年次 | 2 | 担当教員 | 鈴木 莉紗 |
| 学科・コース | 動物・ペット学科昼間Ⅰ部 | 授業 形態 | 講義・演習・実習等 | 総時間 (単位) | 60 (4) | 開講区分 | 後期 金曜日 2限 |
| 教員の略歴 | 動物系専門学校卒業後、2009年～動物病院に動物看護師として勤務現在に至る | | | | | | |
| 授業の学習内容 | この授業は犬や猫の日常的な健康管理や内科診療の補助に必要な手技(採血法、採尿法、薬剤調整、補液、輸血など)を身につけることが目的です。 | | | | | | |
| 到達目標 | 1)保定からバイタルチェックなど日常検査の仕方を学ぶ 2)血液検査や尿検査に必要な検体の扱い方を学ぶ 3)輸液や輸血の原理と看護の方法を理解する 4)看護で必要となる最低限の薬剤、栄養学を理解する | | | | | | |
| 評価方法と基準 | 動物看護師統一認定試験合格 50% 定期試験:40% 授業態度と参加度:10% | | | | | | |

| 授業計画・内容 | | | | |
|---|----|------|-----------------------------------|-------------------|
| 回数 | 日程 | 授業形態 | 学習内容 | 準備学習 時間外学習(学習課題) |
| 1 | / | 講義 | 身近な細菌を培養してみる | 講義範囲を予習・復習する。 |
| 2 | / | 講義 | 身近な細菌を培養してみる | 講義範囲を予習・復習する。 |
| 3 | / | 講義 | 栄養管理の計算と強制給餌を習得する | 講義範囲を予習・復習する。 |
| 4 | / | 講義 | 皮下補液の技術を習得する | 講義範囲を予習・復習する。 |
| 5 | / | 講義 | 輸液療法を習得する | 講義範囲を予習・復習する。 |
| 6 | / | 講義 | 輸液療法の看護を習得する | 講義範囲を予習・復習する。 |
| 7 | / | 講義 | 輸血前のクロスマッチ検査習得する | 講義範囲を予習・復習する。 |
| 8 | / | 講義 | 輸血準備を習得する | 講義範囲を予習・復習する。 |
| 9 | / | 講義 | 薬剤の計算と調剤方法を習得する | 講義範囲を予習・復習する。 |
| 10 | / | 講義 | 経口薬の投与を習得する | 講義範囲を予習・復習する。 |
| 11 | / | 講義 | 点眼液・眼軟膏・点耳液の投与を習得する | 講義範囲を予習・復習する。 |
| 12 | / | 講義 | 簡易な包帯法を習得する | 講義範囲を予習・復習する。 |
| 13 | / | 講義 | 1～12週までの授業内容を復習する | 講義範囲を予習・復習する。 |
| 14 | / | 試験 | 筆記試験 | 試験範囲を勉強し、試験後、見直す。 |
| 15 | / | 講義 | 試験問題の解説を通してこれまでの授業を振り返る | 試験範囲を振り返り、理解を深める。 |
| 準備学習 時間外学習 | | | 学校の図書、インターネットを利用して講義の範囲内を予習・復習する。 | |
| 【使用教科書・教材・参考書】 <input type="checkbox"/> | | | | |

| | | | | | | | | |
|------------|---|----------------|----------|-----------------|-------------|-------------|------|-------------------------------|
| 科目名 (英) | トリミング (Practice of Trimming) | | 必修 選択 | 必修・選択必 修・選択等 | 年次 | 2 | 担当教員 | 大竹 智美 |
| | 学科・コース | 動物・ペット学科昼間 I 部 | 授業 形態 | 講義・演習・実 習等 | 総時間 (単位) | 240 (16) | 開講区分 | 前期 月曜日 1・2・3 曜日・時限 限 |
| 教員の略歴 | 動物系専門学校卒業後、2004年～ペットショップにてトリマーとして勤務 | | | | | | | |
| 授業の学習内容 | 実際にモデル犬を使って、基本的な道具の使い方、犬の扱い方を学びながら、ベーシックを習得する | | | | | | | |
| 到達目標 | 基本的なグルーミング方法を身につけ、犬種別のベーシックが出来る様になる | | | | | | | |
| 評価方法と基準 | 1) 定期テスト80% 2) 出席数20% | | | | | | | |

| 授業計画・内容 | | | | |
|--------------------------------|----|------|-------------------|------------------|
| 回数 | 日程 | 授業形態 | 学習内容 | 準備学習 時間外学習(学習課題) |
| 1 | / | 演習 | 犬種にあったトリミングが実践できる | 講義範囲の復習をする |
| 2 | / | 演習 | 犬種にあったトリミングが実践できる | 演習範囲の復習をする |
| 3 | / | 演習 | 犬種にあったトリミングが実践できる | 演習範囲の予習・復習をする |
| 4 | / | 演習 | 犬種にあったトリミングが実践できる | 演習範囲の予習・復習をする |
| 5 | / | 演習 | 犬種にあったトリミングが実践できる | 演習範囲の予習・復習をする |
| 6 | / | 演習 | 犬種にあったトリミングが実践できる | 演習範囲の予習・復習をする |
| 7 | / | 演習 | 犬種にあったトリミングが実践できる | 演習範囲の予習・復習をする |
| 8 | / | 演習 | 犬種にあったトリミングが実践できる | 演習範囲の予習・復習をする |
| 9 | / | 演習 | 犬種にあったトリミングが実践できる | 演習範囲の予習・復習をする |
| 10 | / | 演習 | 犬種にあったトリミングが実践できる | 演習範囲の予習・復習をする |
| 11 | / | 演習 | 犬種にあったトリミングが実践できる | 演習範囲の予習・復習をする |
| 12 | / | 演習 | 犬種にあったトリミングが実践できる | 演習範囲の予習・復習をする |
| 13 | / | 演習 | 犬種にあったトリミングが実践できる | 演習範囲の予習・復習をする |
| 14 | / | 試験 | 演習範囲 | 演習範囲の予習・復習をする |
| 15 | / | 演習 | まとめ | 演習範囲を振り返る |
| 準備学習 時間外学習 | | | | |
| 【使用教科書・教材・参考書】 □ グルーミングテキスト | | | | |

| | | | | | | | | |
|------------|---|----------------|----------|-----------------|-------------|-------------|------|----------------------|
| 科目名 (英) | トリミング (Practice of Trimming) | | 必修 選択 | 必修・選択必 修・選択等 | 年次 | 2 | 担当教員 | 大竹 智美 |
| | 学科・コース | 動物・ペット学科昼間 I 部 | 授業 形態 | 講義・演習・実 習等 | 総時間 (単位) | 240 (16) | 開講区分 | 後期 月曜日 1・2・3 限 |
| 教員の略歴 | 動物系専門学校卒業後、2004年～ペットショップにてトリマーとして勤務 | | | | | | | |
| 授業の学習内容 | 実際にモデル犬を使って、基本的な道具の使い方、犬の扱い方を学びながら、ベーシックを習得する | | | | | | | |
| 到達目標 | 基本的なグルーミング方法を身につけ、犬種別のベーシックが出来る様になる | | | | | | | |
| 評価方法と基準 | 1) 定期テスト80% 2) 出席数20% | | | | | | | |

| 授業計画・内容 | | | | |
|--------------------------------|----|------|-------------------|------------------|
| 回数 | 日程 | 授業形態 | 学習内容 | 準備学習 時間外学習(学習課題) |
| 1 | / | 演習 | 犬種にあったトリミングが実践できる | 講義範囲の復習をする |
| 2 | / | 演習 | 犬種にあったトリミングが実践できる | 演習範囲の復習をする |
| 3 | / | 演習 | 犬種にあったトリミングが実践できる | 演習範囲の予習・復習をする |
| 4 | / | 演習 | 犬種にあったトリミングが実践できる | 演習範囲の予習・復習をする |
| 5 | / | 演習 | 犬種にあったトリミングが実践できる | 演習範囲の予習・復習をする |
| 6 | / | 演習 | 犬種にあったトリミングが実践できる | 演習範囲の予習・復習をする |
| 7 | / | 演習 | 犬種にあったトリミングが実践できる | 演習範囲の予習・復習をする |
| 8 | / | 演習 | 犬種にあったトリミングが実践できる | 演習範囲の予習・復習をする |
| 9 | / | 演習 | 犬種にあったトリミングが実践できる | 演習範囲の予習・復習をする |
| 10 | / | 演習 | 犬種にあったトリミングが実践できる | 演習範囲の予習・復習をする |
| 11 | / | 演習 | 犬種にあったトリミングが実践できる | 演習範囲の予習・復習をする |
| 12 | / | 演習 | 犬種にあったトリミングが実践できる | 演習範囲の予習・復習をする |
| 13 | / | 演習 | 犬種にあったトリミングが実践できる | 演習範囲の予習・復習をする |
| 14 | / | 試験 | 演習範囲 | 演習範囲の予習・復習をする |
| 15 | / | 演習 | まとめ | 演習範囲を振り返る |
| 準備学習 時間外学習 | | | | |
| 【使用教科書・教材・参考書】 □ グルーミングテキスト | | | | |

| | | | | | | | |
|------------|---|----------|-------------|-------------|-----------|------|--------------|
| 科目名 (英) | 動物園研究 () | 必修 選択 | 必修・選択必修・選択等 | 年次 | 2 | 担当教員 | 橋川 俊行 |
| 学科・コース | 動物・ペット学科昼間 I 部 | 授業 形態 | 講義・演習・実習等 | 総時間 (単位) | 60 (4) | 開講区分 | 前期 金曜日 1限 |
| 教員の略歴 | 日本動物園水族館協会飼育技師(哺乳類、水族)認定資格、1982年～横浜市立動物園飼育員を経てペット総合商社(ミヤザワ) | | | | | | |
| 授業の学習内容 | 動物関連施設に関する学習、自身の長年関わってきた経験をもとに実際の現場実状を伝える。 | | | | | | |
| 到達目標 | 動物飼育技術者の育成 | | | | | | |
| 評価方法と基準 | 筆記試験80%、出席日数20% | | | | | | |

| 授業計画・内容 | | | | |
|------------------------------|----|------|--------------------------|-------------------|
| 回数 | 日程 | 授業形態 | 学習内容 | 準備学習 時間外学習(学習課題) |
| 1 | | 講義 | 飼育室の動物へのエンリッチメントが実践できる | 授業範囲の予習と復習 |
| 2 | | 講義 | 飼育室の動物へのエンリッチメントが実践できる | 授業範囲の予習と復習 |
| 3 | | 講義 | 飼育室の動物へのエンリッチメントが実践できる | 授業範囲の予習と復習 |
| 4 | | 講義 | 飼育室の動物へのエンリッチメントが実践できる | 授業範囲の予習と復習 |
| 5 | | 講義 | トレーニングの多様性を説明できる | 授業範囲の予習と復習 |
| 6 | | 講義 | トレーニングの手順を説明できる | 授業範囲の予習と復習 |
| 7 | | 講義 | ハズバンドリートレーニングについて説明できる | 授業範囲の予習と復習 |
| 8 | | 講義 | ハズバンドリートレーニングの実践方法を説明できる | 授業範囲の予習と復習 |
| 9 | | 講義 | 動物園での繁殖に向けた取り組みについて説明できる | 授業範囲の予習と復習 |
| 10 | | 講義 | 動物園での繁殖に向けた取り組みについて説明できる | 授業範囲の予習と復習 |
| 11 | | 講義 | 動物園での繁殖に向けた取り組みについて説明できる | 授業範囲の予習と復習 |
| 12 | | 講義 | 動物園での飼料選出の条件を説明できる | 授業範囲の予習と復習 |
| 13 | | 講義 | 動物園での飼料選出の条件を説明できる | 授業範囲の予習と復習 |
| 14 | | 試験 | 試験 | 今までの演習内容を行う |
| 15 | | 講義 | 誤解答について説明できる | 試験範囲を振り返り、理解を深める。 |
| 準備学習 時間外学習 | | | | |
| 【使用教科書・教材・参考書】 □ 飼育ハンドブック | | | | |

| | | | | | | | |
|------------|---|----------|-------------|-------------|-----------|------|--------------|
| 科目名 (英) | 動物園研究 () | 必修 選択 | 必修・選択必修・選択等 | 年次 | 2 | 担当教員 | 橋川 俊行 |
| 学科・コース | 動物・ペット学科昼間Ⅰ部 | 授業 形態 | 講義・演習・実習等 | 総時間 (単位) | 60 (4) | 開講区分 | 後期 金曜日 1限 |
| 教員の略歴 | 日本動物園水族館協会飼育技師(哺乳類、水族)認定資格、1982年～横浜市立動物園飼育員を経てペット総合商社(ミヤザワ) | | | | | | |
| 授業の学習内容 | 動物関連施設に関する学習、自身の長年関わってきた経験をもとに実際の現場実状を伝える。 | | | | | | |
| 到達目標 | 動物飼育技術者の育成 | | | | | | |
| 評価方法と基準 | 筆記試験80%、出席日数20% | | | | | | |

| 授業計画・内容 | | | | |
|------------------------------|----|------|----------------------|-------------------|
| 回数 | 日程 | 授業形態 | 学習内容 | 準備学習 時間外学習(学習課題) |
| 1 | | 講義 | 環境エンリッチメントを理解する振り返り1 | 授業範囲の予習と復習 |
| 2 | | 講義 | 環境エンリッチメントを理解する振り返り2 | 授業範囲の予習と復習 |
| 3 | | 講義 | 環境エンリッチメントを理解する振り返り3 | 授業範囲の予習と復習 |
| 4 | | 講義 | 環境エンリッチメントを理解する振り返り4 | 授業範囲の予習と復習 |
| 5 | | 講義 | 動物園のトレーニングを理解する | 授業範囲の予習と復習 |
| 6 | | 講義 | 動物園のトレーニングを理解する2 | 授業範囲の予習と復習 |
| 7 | | 講義 | ハズバンドリートレーニングを理解する1 | 授業範囲の予習と復習 |
| 8 | | 講義 | ハズバンドリートレーニングを理解する2 | 授業範囲の予習と復習 |
| 9 | | 講義 | 哺乳類の繁殖を理解する1 | 授業範囲の予習と復習 |
| 10 | | 講義 | 哺乳類の繁殖を理解する2 | 授業範囲の予習と復習 |
| 11 | | 講義 | 哺乳類の繁殖を理解する3 | 授業範囲の予習と復習 |
| 12 | | 講義 | 動物園での飼料選出を理解する1 | 授業範囲の予習と復習 |
| 13 | | 講義 | 動物園での飼料選出を理解する2 | 授業範囲の予習と復習 |
| 14 | | 試験 | 試験 | 今までの演習内容を行う |
| 15 | | 講義 | 振り返り | 試験範囲を振り返り、理解を深める。 |
| 準備学習 時間外学習 | | | | |
| 【使用教科書・教材・参考書】 □ 飼育ハンドブック | | | | |

| | | | | | | | |
|-------------|---|----------|-----------------|-------------|------------|------|----------------|
| 科目名 (英) | アニマルエデュケーション () | 必修 選択 | 必修・選択必 修・選択等 | 年次 | 2 | 担当教員 | 橋川 俊行 |
| 学科・コース | 動物・ペット学科昼間 I 部 | 授業 形態 | 講義・演習・実 習等 | 総時間 (単位) | 120 (8) | 開講区分 | 前期 水曜日 2・3限 |
| 教員の略歴 | 日本動物園水族館協会飼育技師(哺乳類、水族)認定資格、1982年～横浜市立動物園飼育員を経てペット総合商社(ミヤザワ) | | | | | | |
| 授業の学習内 容 | 動物関連現場で実際に使える技術の習得 | | | | | | |
| 到達目標 | 座学だけではなく、物作り、実用的な物を自分で考え、計画から実際に制作し、その動物に適した物を作り上げる。 | | | | | | |
| 評価方法と基準 | 授業参加態度、出席数 | | | | | | |

| 授業計画・内容 | | | | |
|------------------|----|------|--------------------------|------------------|
| 回数 | 日程 | 授業形態 | 学習内容 | 準備学習 時間外学習(学習課題) |
| 1 | | 講義 | 1年間の進め方 | 授業範囲の予習と復習 |
| 2 | | 演習 | 製作物の説明、イメージ作製ができる | 動物特性調査 |
| 3 | | 演習 | 説明、使用法、DVD(ミーヤキヤット)を理解する | 授業範囲の予習と復習 |
| 4 | | 演習 | 材料の加工ができる | 授業範囲の予習と復習 |
| 5 | | 演習 | 材料の加工ができる | 授業範囲の予習と復習 |
| 6 | | 演習 | 材料の加工、組み立てができる | 授業範囲の予習と復習 |
| 7 | | 演習 | 材料の加工、組み立てができる | 授業範囲の予習と復習 |
| 8 | | 演習 | 材料の加工、組み立てができる | 授業範囲の予習と復習 |
| 9 | | 演習 | 材料の加工、組み立てができる | 授業範囲の予習と復習 |
| 10 | | 演習 | 馬サファリパークにて現場、指導を理解する | 授業範囲の予習と復習 |
| 11 | | 演習 | 馬サファリパークにて現場、指導を理解する | 授業範囲の予習と復習 |
| 12 | | 演習 | DVD(象のハナコ)を理解する | 授業範囲の予習と復習 |
| 13 | | 演習 | 材料の加工、組み立てができる | 授業範囲の予習と復習 |
| 14 | | 演習 | 材料の加工、組み立てができる | 授業範囲の予習と復習 |
| 15 | | 講義 | 製作物完成、設置ができる | 授業範囲の予習と復習 |
| 準備学習 時間外学習 | | | | |
| 【使用教科書・教材・参考書】 □ | | | | |

| | | | | | | | |
|------------|---|----------|-------------|-------------|------------|------|----------------|
| 科目名 (英) | アニマルエデュケーション () | 必修 選択 | 必修・選択必修・選択等 | 年次 | 2 | 担当教員 | 橋川 俊行 |
| 学科・コース | 動物・ペット学科昼間 I 部 | 授業 形態 | 講義・演習・実習等 | 総時間 (単位) | 120 (8) | 開講区分 | 後期 水曜日 2・3限 |
| 教員の略歴 | 日本動物園水族館協会飼育技師(哺乳類、水族)認定資格、1982年～横浜市立動物園飼育員を経てペット総合商社(ミヤザワ) | | | | | | |
| 授業の学習内容 | 動物関連現場で実際に使える技術の習得 | | | | | | |
| 到達目標 | 座学だけではなく、物作り、実用的な物を自分で考え、計画から実際に制作し、その動物に適した物を作り上げる。 | | | | | | |
| 評価方法と基準 | 授業参加態度、出席数 | | | | | | |

| 授業計画・内容 | | | | |
|------------------|----|------|-------------------|------------------|
| 回数 | 日程 | 授業形態 | 学習内容 | 準備学習 時間外学習(学習課題) |
| 1 | | 演習 | 製作物の説明、イメージ作製ができる | 授業範囲の予習と復習 |
| 2 | | 演習 | 材料の加工ができる | 授業範囲の予習と復習 |
| 3 | | 演習 | 材料の加工ができる | 授業範囲の予習と復習 |
| 4 | | 演習 | 材料の加工ができる | 授業範囲の予習と復習 |
| 5 | | 演習 | 材料の加工ができる | 授業範囲の予習と復習 |
| 6 | | 演習 | 材料の加工、組み立てができる | 授業範囲の予習と復習 |
| 7 | | 演習 | 材料の加工、組み立てができる | 授業範囲の予習と復習 |
| 8 | | 演習 | 材料の加工、組み立てができる | 授業範囲の予習と復習 |
| 9 | | 演習 | 材料の加工、組み立てができる | 授業範囲の予習と復習 |
| 10 | | 演習 | 材料の加工、組み立てができる | 授業範囲の予習と復習 |
| 11 | | 演習 | 材料の加工、組み立てができる | 授業範囲の予習と復習 |
| 12 | | 演習 | 材料の加工、組み立てができる | 授業範囲の予習と復習 |
| 13 | | 演習 | 材料の加工、組み立てができる | 授業範囲の予習と復習 |
| 14 | | 演習 | 材料の加工、組み立てができる | 授業範囲の予習と復習 |
| 15 | | 講義 | 製作物完成、設置ができる | 授業範囲の予習と復習 |
| 準備学習 時間外学習 | | | | |
| 【使用教科書・教材・参考書】 □ | | | | |

| | | | | | | | | |
|-------------|---|----------------|----------|-----------------|-------------|-----------|------|------------------|
| 科目名 (英) | ビジネスマナー (Seminar for job Hunting) | | 必修 選択 | 必修・選択必 修・選択等 | 年次 | 2 | 担当教員 | 太田 |
| | 学科・コース | 動物・ペット学科昼間 I 部 | 授業 形態 | 講義・演習・実 習等 | 総時間 (単位) | 30 (2) | 開講区分 | 前期・後期・通 年・集中等 |
| 教員の略歴 | 平成19年より専門学校にて教務スタッフとして勤務、現在はキャリアセンター主任 | | | | | | | |
| 授業の学習内 容 | ①就職し仕事をしていく上で必要な人間力を身に付ける。また、各種動物業界を理解し、仕事への理解、効果、意義について広く理解する。 ②学園が掲げる人間教育の実践と就職後のホスピタリティに生かせる場面の想定し実践に必要なマインドを身に付ける。また、先輩なった2年生は後輩である1年生に対する飼育実習の指導力を身に付ける。 ③目標とする職業(仕事)の理解を深め、現状を把握する。 | | | | | | | |
| 到達目標 | ・仕事をしていく上で必要な会社の理念や職場環境をより理解し、現場における即戦力となりうる自分について考える。 ・業界の変遷について理解を深め、人の生活とニーズ、業界の現状と方向性について理解を深める。 ・就職したのちに安易な理由で退職することのないよう、仕事、職場、そして人間関係の現状をグローバルな視線で理解をする | | | | | | | |
| 評価方法と基準 | 1)出席率(66.7%) 2)提出物(100%) 3)筆記試験(60%) インターンシップの報告、企業へのお礼状、受験報告書の提出(10日から2週間以内作成、提出を可能にする) | | | | | | | |

| 授業計画・内容 | | | | |
|------------------|----|------|-----------------------------------|------------------|
| 回数 | 日程 | 授業形態 | 学習内容 | 準備学習 時間外学習(学習課題) |
| 1 | / | 講義 | 授業計画、内容、効果を理解する | 就職希望アンケート |
| 2 | / | 講義 | 求人票の推移と業界の見通しを理解する | プレゼン準備 |
| 3 | / | 講義 | 専門職の変遷について、過去から現在が理解できる | |
| 4 | / | 講義 | 専門職の変遷について、現在から将来が展望できる | |
| 5 | / | 講義 | 求人票の見方が理解できる(給料明細から) | プレゼン準備 |
| 6 | / | 講義 | 合同企業説明会(企業、仕事への理解が深まる) | |
| 7 | / | 講義 | 合同企業説明会(企業、仕事への理解が深まる) | |
| 8 | / | 講義 | 人間力、自己PRを強化できる | |
| 9 | / | 講義 | 業界研究①(業界からのゲストを通じて仕事、やりがいを深める) | |
| 10 | / | 講義 | 企業見学①(関連施設の見学により職場への理解を深めることができる) | |
| 11 | / | 講義 | 業界研究②(業界からのゲストを通じて仕事、やりがいを深める) | |
| 12 | / | 講義 | 授業の振り返り(習得すべき大切なことが理解できる) | |
| 13 | / | 講義 | 前期末試験 | |
| 14 | / | 講義 | 試験結果と解説 | |
| 15 | / | 講義 | 後期に向けて(自分を高める) | プレゼン準備 |
| 16 | / | | 個別対応 | ワークシート |
| 準備学習 時間外学習 | | | | |
| 【使用教科書・教材・参考書】 □ | | | | |

| | | | | | | | | |
|-------------|--|----------------|----------|-----------------|-------------|-----------|------|------------------|
| 科目名 (英) | ビジネスマナー (Seminar for job Hunting) | | 必修 選択 | 必修・選択必 修・選択等 | 年次 | 1 | 担当教員 | 岩田 |
| | 学科・コース | 動物・ペット学科屋間 I 部 | 授業 形態 | 講義・演習・実 習等 | 総時間 (単位) | 30 (2) | 開講区分 | 前期・後期・通 年・集中等 |
| 教員の略歴 | 動物系専門学校卒業後、専門学校勤務を経て平成19年より教務課長を歴任し現在はキャリアセンター課長 | | | | | | | |
| 授業の学習内 容 | <p>①就職内定後の学生に対してあらためて社会人としての基礎力を身に付けます。主に会社組織で実施している研修を模範とし社会人として必要な人間力を身に付ける。また、就職後の各種動物業界を理解し、社会のニーズを理解し、会社(業界)においてリーダーになりうる人材として必要なマネジメント力を身に付ける。</p> <p>②学園が掲げる人間教育の実践と就職後のホスピタリティ・マネジメント力を身に付けるための場面の想定し実践する。また、業界で取り組んでいる実務の要素を飼育実習の現場委に生かせるような運営力、指導力を身に付ける。</p> <p>③業界人(社会人)として5年後、10年後の自身の将来のビジョンを模索する。</p> | | | | | | | |
| 到達目標 | <ul style="list-style-type: none"> ・業界で長く仕事をしていく上で必要な会社の組織の体制をより理解し、常に成長していく必要性について考える。 ・社会のニーズをとらえ業界の将来について考えを深め、仕事と自身のライフスタイルのより良い関係を求める。 ・業務上の立場を理解し、業務成績の向上、より良い職場環境の実現に向けたマネジメントについて力を理解をする。 | | | | | | | |
| 評価方法と基準 | <p>1)出席率(66.7%) 2)提出物(100%) 3)筆記試験(60%)</p> <p>・インターンシップの報告、企業へのお礼状、受験報告書の提出(10日から2週間以内作成、提出を可能にする)</p> | | | | | | | |

| 授業計画・内容 | | | | |
|---|----|------|----------------------------------|------------------|
| 回数 | 日程 | 授業形態 | 学習内容 | 準備学習 時間外学習(学習課題) |
| 1 | / | 講義 | 授業計画、内容、効果を理解する | |
| 2 | / | 講義 | 働くを知る(会社形態・雇用条件等を知る) | |
| 3 | / | 講義 | 業界研究③(業界からのゲストを通じて職場でのマネジメント深める) | |
| 4 | / | 講義 | 組織を知る。(秩序、マナー人間関係について知る) | |
| 5 | / | 講義 | 業界研究④(業界からのゲストを通じて職場でのマネジメント深める) | |
| 6 | / | 講義 | キャリア形成、キャリアアップ知る。 | |
| 7 | / | 講義 | 業界研究⑤(業界からのゲストを通じて職場でのマネジメント深める) | |
| 8 | / | 講義 | ビジネスマナー講座(コミュニケーションの実践) | |
| 9 | / | 講義 | コンプライアンスについて学ぶ。 | |
| 10 | / | 講義 | 社会人基礎力を理解する(主体性を知る)。 | |
| 11 | / | 講義 | 社会人基礎力を理解する(チーム力を知る)。 | |
| 12 | / | 講義 | 授業の振り返り(習得すべき大切なことが理解できる) | |
| 13 | / | 講義 | グループワーク(会社経営について考える①) | |
| 14 | / | 講義 | グループワーク(会社経営について考える②) | |
| 15 | / | 講義 | プレゼンテーション(将来を見据える) | プレゼン準備 |
| 16 | / | | 個別対応 | ワークシート |
| 準備学習 時間外学習 | | | | |
| 【使用教科書・教材・参考書】 □ | | | | |
| ・社会人の基礎力 ・滋慶語録 ・Hund-book of Life Style | | | | |